

2026年7月16日 発表

子供の進路・職業選択における 親の影響力に関する調査

株式会社アイDEM

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10 アイDEM本社ビル

お問い合わせ

広報担当 / 栗木・望月・平沢
調査担当 / 古橋

電話 03-5269-8780 kouhousitu@aidem.co.jp

目次

調査概要	・・・・・・・・	p. 3
1 仕事の充実度	・・・・・・・・	p. 4
2 子供に自身の仕事を勧めるか	・・・・・・・・	p. 5
3 子供に自身の働き方を勧めるか	・・・・・・・・	p. 5
4 仕事の捉え方	・・・・・・・・	p. 6
5 子供との会話時間	・・・・・・・・	p. 7
6 子供に自身の仕事の話をするか	・・・・・・・・	p. 8
①業務内容 ②働く目的 ③仕事で大変なこと ④仕事での失敗談 ⑤やりがい		
⑥仕事で大切にしていること ⑦なぜその仕事を選んだのか		
⑧仕事での成功談 ⑨仕事の愚痴 ⑩収入		
7 子供に世の中の職業・仕事の話をするか	・・・・・・・・	p. 14
①世の中には様々な職業・仕事があること ②なぜ働く必要があるのか		
③職業によって、収入や休みなど条件が違ふこと ④仕事に就くために必要な能力やスキル		
⑤雇用形態（正社員・パート・派遣など） ⑥それぞれの職業の社会的役割		
⑦今後AIやロボットなどに取って代わられると言われている仕事		
8 子供の将来選択への関わり方	・・・・・・・・	p. 19
9 子供の努力タイプ	・・・・・・・・	p. 20
10 子供の思考・行動傾向	・・・・・・・・	p. 21
①自分なりの考えや希望を持っている ②最終的には、自分で決めようとしている		
③自分の考えや希望を、親に対して言葉で伝えている		
④複数の選択肢がある場合、自分にとって何が大切かを考えている		
⑤結果が悪かったとしても、他責思考ではなく自分で選択した結果だと受け止められる		
⑥自分の考えや希望を、友人や周囲の人に伝えている		
11 進路選択に対する子供自身の姿勢	・・・・・・・・	p. 25
12 子供の進路選択に影響するもの	・・・・・・・・	p. 27
13 子供の勉強への取り組み姿勢	・・・・・・・・	p. 28
子供の生活を見ていて、		
「何のために様々な科目の勉強をするのか」を理解しているように感じるか		
①好き・得意な科目への取り組み姿勢 ②嫌い・苦手な科目への取り組み姿勢		
③どちらでもない科目への取り組み姿勢		
14 子供の職業知識	・・・・・・・・	p. 31
15 子供に「将来なりたい職業」はあるか	・・・・・・・・	p. 32
16 「将来なりたい職業」について親子対話時の対応	・・・・・・・・	p. 33
17 職業選択に対する子供自身の姿勢	・・・・・・・・	p. 34
18 子供の進路・職業選択に親の職業は影響するか	・・・・・・・・	p. 36
19 子供の進路・職業選択に親の働き方は影響するか	・・・・・・・・	p. 37
20 子供は親の働く姿を見たことがあるか	・・・・・・・・	p. 38
21 子供は将来働くことを楽しみに思っているか	・・・・・・・・	p. 39
22 子供に身に付けてほしい能力	・・・・・・・・	p. 40
23 学校以外のキャリア教育機会	・・・・・・・・	p. 41
24 学校に望むキャリア教育機会	・・・・・・・・	p. 42

調査概要

調査目的

親の関わりが、子供の進路・職業選択、行動傾向にどのような影響があるのかを調査する

調査対象

中学校1年生から3年生の子供を持ち、配偶者も就業している男女

調査方法

インターネット調査

調査期間

2026年5月26日～28日

有効回答

1200名

回答者内訳と留意事項

- 調査内の「父親」「母親」の表記について
一部設問においては、「あなた（回答者本人）」「配偶者（回答者の配偶者）」の項目を設けて質問し、それぞれの回答を回答者の性別によって以下のように分類・再集計し、「父親」「母親」のデータを算出している。

父親： [A：男性回答者における「あなた」の項目の回答] + [D：女性回答者における「配偶者」の項目の回答]
母親： [B：男性回答者における「配偶者」の項目の回答] + [C：女性回答者における「あなた」の項目の回答]

回答者本人

性別		全体	
回答者性別	子供性別	n	%
男性	男子	300	25.0
男性	女子	300	25.0
女性	男子	300	25.0
女性	女子	300	25.0
計		1200	100.0

- 本調査は回答割合の表示において小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合がある。
- 「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示す。

年代	全体		男性		女性	
	n	%	n	%	n	%
30代	121	10.1	31	5.2	90	15.0
40代	704	58.7	306	51.0	398	66.3
50代以上	375	31.3	263	43.8	112	18.7
計	1200	100.0	600	100.0	600	100.0

就労状況	全体		男性		女性	
	n	%	n	%	n	%
正社員	751	63.7	537	89.2	214	38.2
自営業・フリーランス等の個人事業主	68	5.3	40	7.3	28	3.2
契約・嘱託社員	39	2.7	15	2.3	24	3.0
派遣社員	19	1.9	1	0.3	18	3.5
アルバイト・パート	323	26.5	7	0.8	316	52.2
計	1200	100.0	600	100.0	600	100.0

回答者の子供

学年	全体		男子		女子	
	n	%	n	%	n	%
中学1年生	302	25.2	144	24.0	158	26.3
中学2年生	351	29.3	174	29.0	177	29.5
中学3年生	547	45.6	282	47.0	265	44.2
計	1200	100.0	600	100.0	600	100.0

学校種別	全体	
	n	%
国立	60	5.0
私立	187	15.6
公立	953	79.4
計	1200	100.0

部活動	全体	
	n	%
運動系	643	53.6
文科系	320	26.7
部活動なし	237	19.8
計	1200	100.0

習い事 (複数回答)	全体	
	n	%
学習塾・通信教育	555	46.3
スポーツ・ダンス	211	17.6
英会話	161	13.4
音楽系	150	12.5
絵画・書道などアート系	86	7.2
プログラミング	61	5.1
武道	40	3.3
その他	21	1.8
習い事はしていない	370	30.8

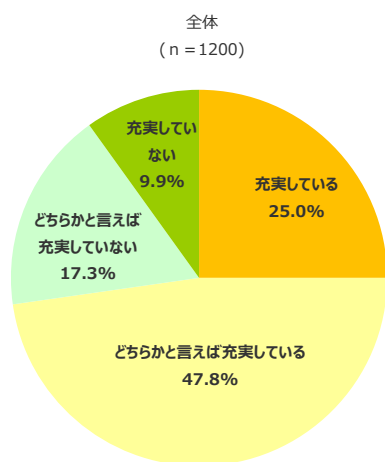
仕事の充実度

中学校1-3年生の子供がいる男女に、仕事の充実度を聞いた。「充実している」25.0%、「どちらかと言えば充実している」47.8%となり、仕事が充実している男女が72.8%に上った（図1.1）。

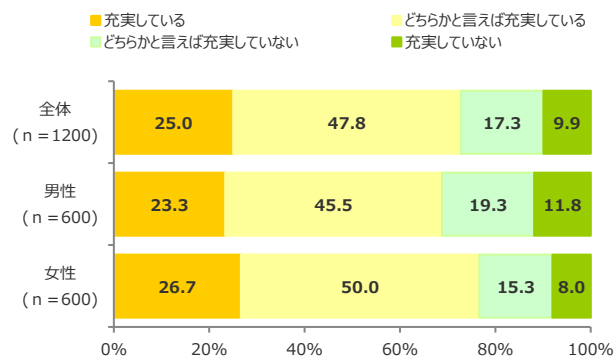
大人の性別でみると、「充実している・計（「充実している」+「どちらかと言えば充実している」の計/以下同）」は、男性で68.8%、女性で76.7%と、女性の方が7.9ポイント高くなっている（図1.2）。

就労状況別にみると、「充実している」は「正社員/自営業・個人事業主」では男性が23.5%、女性が31.5%、「非正規雇用」では男性が19.0%、女性が23.3%となっている。同一の就労状況では、女性の方が充実度が高くなっている（図1.3、図1.4）。

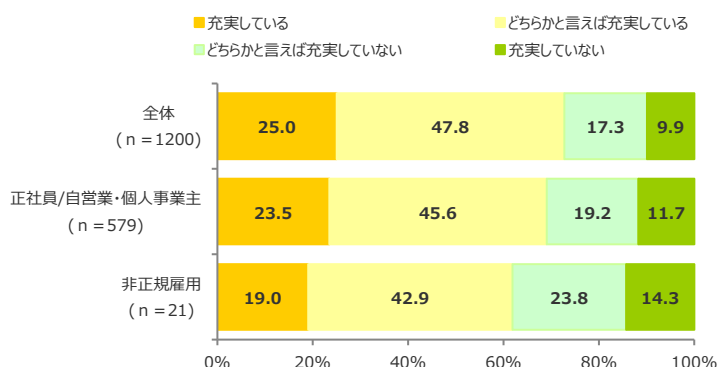
【図1.1】仕事の充実度



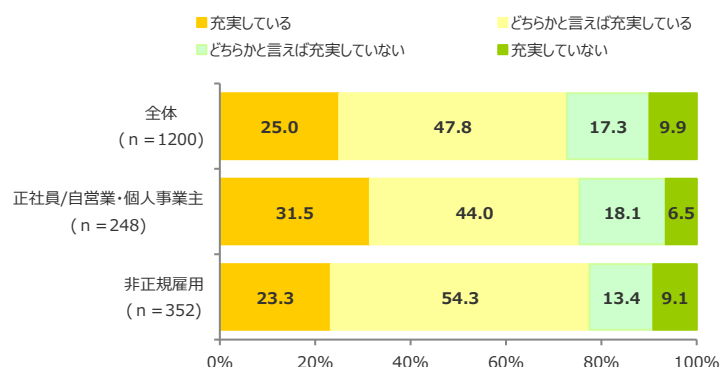
【図1.2】仕事の充実度：大人性別



【図1.3】仕事の充実度：男性の就労状況別



【図1.4】仕事の充実度：女性の就労状況別



2

子供に自身の仕事を勧めるか

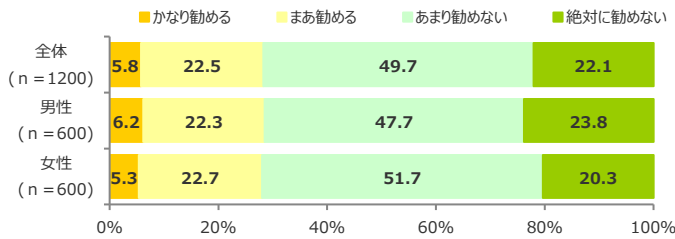
中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身の仕事を子供に勧めるかを聞くと、「かなり勧める」5.8%、「まあ勧める」22.5%、「あまり勧めない」49.7%、「絶対に勧めない」22.1%となった。

大人の性別でみると、男女で大きな差は見られない（図2.1）。

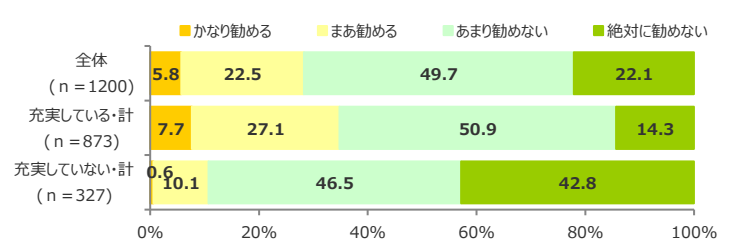
仕事の充実度別でみると、「充実していない・計」では「絶対に勧めない」が42.8%となっており、「充実している・計」14.3%の3倍近く高くなっている（図2.2）。

就労状況別にみると、女性の「正社員/自営業・個人事業主」においては、「かなり勧める」と「まあ勧める」の合計が37.1%となり、「非正規雇用」の21.6%と15.5ポイントの差が生じていた（図2.4）。

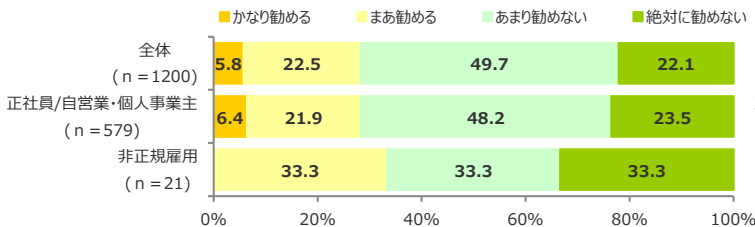
【図2.1】子供に自身の仕事を勧めるか：大人性別



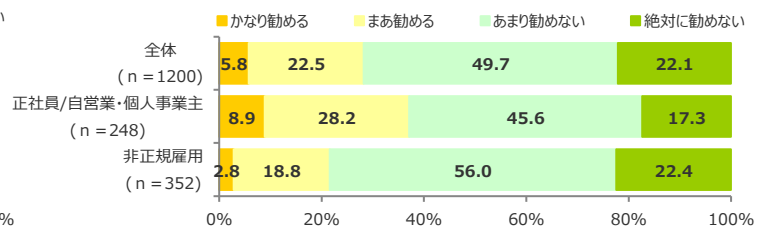
【図2.2】子供に自身の仕事を勧めるか：仕事の充実度別



【図2.3】子供に自身の仕事を勧めるか：男性/就労状況別



【図2.4】子供に自身の仕事を勧めるか：女性/就労状況別



3

子供に自身の働き方を勧めるか

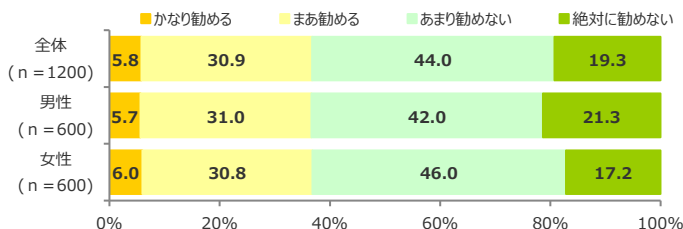
中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身の働き方を子供に勧めるかを聞くと、「かなり勧める」5.8%、「まあ勧める」30.9%、「あまり勧めない」44.0%、「絶対に勧めない」19.3%となった。

大人の性別でみると、男女で大きな差は見られない（図3.1）。

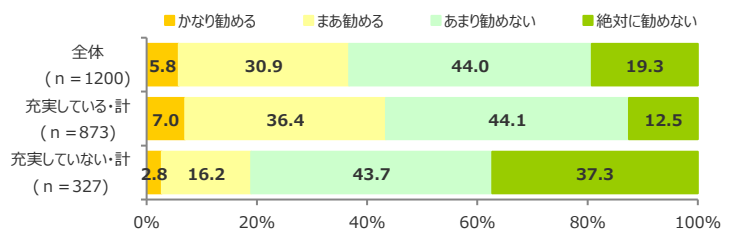
仕事の充実度別でみると、「充実している・計」では「かなり勧める」と「まあ勧める」の合計が43.4%に上った。一方、「充実していない・計」では「絶対に勧めない」が37.3%となっており、「充実している・計」の12.5%の3倍も高くなっている（図3.2）。

就労状況別にみると、女性の「正社員/自営業・個人事業主」においては、「かなり勧める」と「まあ勧める」の合計が51.2%と半数を超え、「非正規雇用」の26.7%の約2倍も高くなっている（図3.4）。

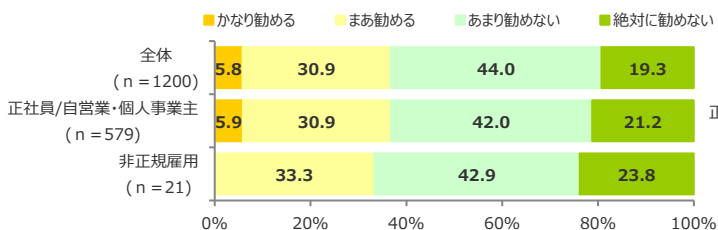
【図3.1】子供に自身の働き方を勧めるか：大人性別



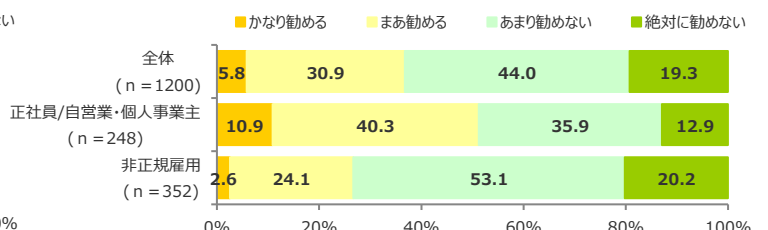
【図3.2】子供に自身の働き方を勧めるか：仕事の充実度別



【図3.3】子供に自身の働き方を勧めるか：男性/就労状況別



【図3.4】子供に自身の働き方を勧めるか：女性/就労状況別



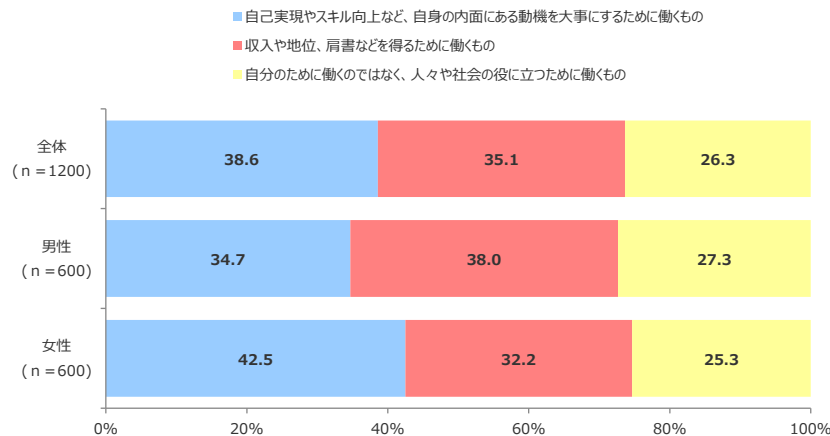
仕事の捉え方

中学校1-3年生の子供がいる男女に、仕事の捉え方について、3つの選択肢の中から自身の考えに最も近いものを聞いた。「自己実現やスキル向上など、自身の内面にある動機を大事にするために働くもの（以降「内因的仕事観」と表記）」が最も多く38.6%、次いで「収入や地位、肩書などを得るために働くもの（以降「功利的仕事観」と表記）」35.1%、「自分のために働くのではなく、人々や社会の役に立つために働くもの（以降「規範的仕事観」と表記）」が26.3%という結果になった（図4.1）。

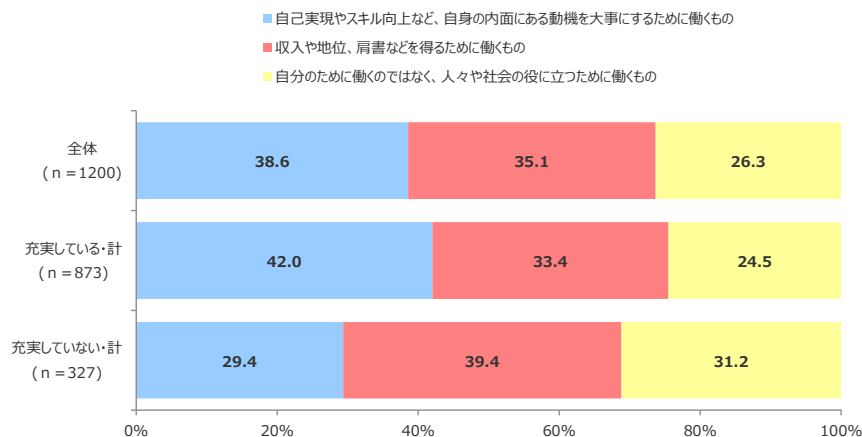
大人の性別でみると、男性は「功利的仕事観」、女性は「内因的仕事観」が最も多くそれぞれ38.0%、42.5%である（図4.1）。

仕事の充実度との関係を見ると、仕事が「充実している・計」は「内因的仕事観」が最も多く42.0%、仕事が「充実していない・計」は「功利的仕事観」が最も多く39.4%であった。「内因的仕事観」の回答割合は、「充実している」人では「充実していない」人に比べ12.6ポイント高くなっていた。“自身の内面にある動機を大事にして働くこと”が仕事の充実度を高めているのかもしれない（図4.2）。

【図4.1】仕事の捉え方：大人性別



【図4.2】仕事の捉え方：仕事の充実度別



子供との会話時間

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供との会話時間（1日平均）を聞いた。

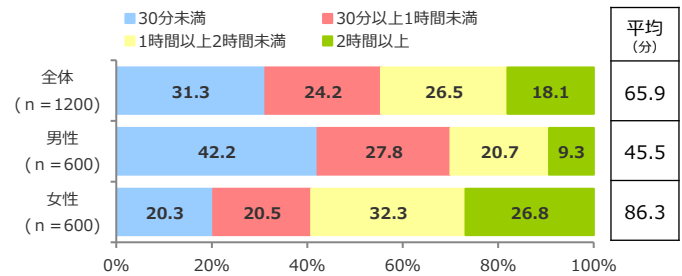
労働日の子供との会話時間

労働日における子供との会話時間（1日平均）を聞くと、全体では「30分未満」31.3%、「30分以上1時間未満」24.2%、「1時間以上2時間未満」26.5%、「2時間以上」18.1%で、平均は65.9分だった（図5.1）。

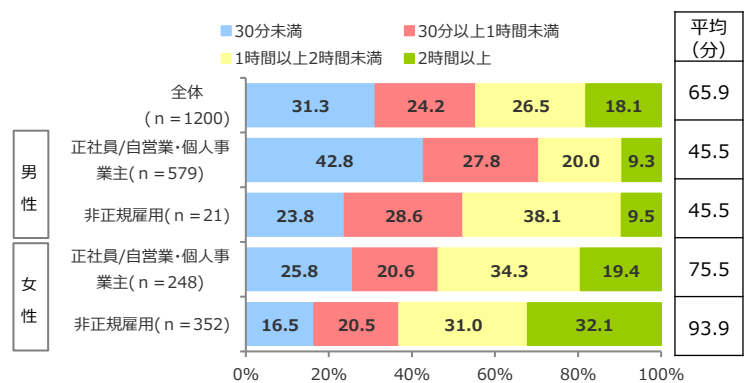
大人の性別でみると、男性は「30分未満」42.2%、「30分以上1時間未満」27.8%と、1時間未満が70.0%に上る。一方、女性は「1時間以上2時間未満」32.3%、「2時間以上」26.8%と1時間以上話している者が約6割となった。平均時間も男性の約2倍となり、女性の方が子供との会話時間が長くなっている（図5.1）。

就労状況別でみると、「30分未満」と「30分以上1時間未満」を合わせた「1時間未満」の回答者は、「正社員/自営業・個人事業主」では男性が70.6%、女性が46.4%、「非正規雇用」では男性が52.4%、女性が37.0%となっており、「正社員/自営業・個人事業主」の方が会話時間が短い傾向となっている（図5.2）。

【図5.1】労働日の子供との会話時間：大人性別



【図5.2】労働日の子供との会話時間：男女就労状況別



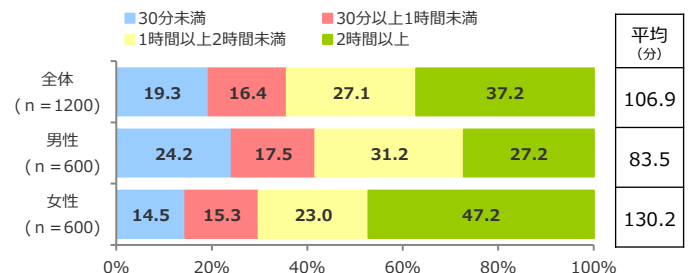
休日の子供との会話時間

休日における子供との会話時間（1日平均）を聞くと、全体では「2時間以上」が37.2%で最も高くなっていた。平均は106.9分となり、平日よりも約40分多くなっている（図5.3）。

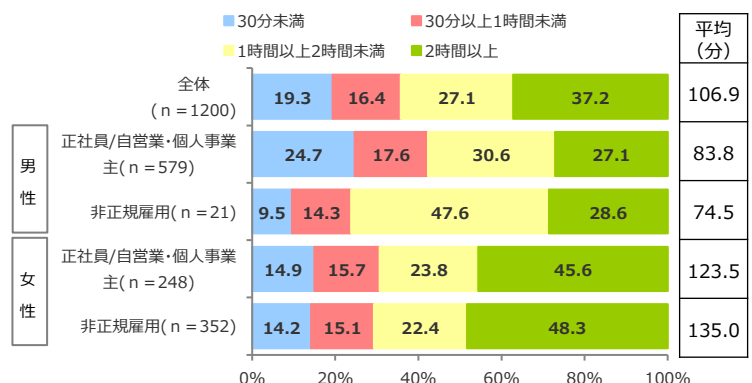
大人の性別でみると、回答が最も多いのは、男性では「1時間以上2時間未満」31.2%、女性では「2時間以上」47.2%となっている。「2時間以上」の回答割合は、女性と男性で20.0ポイントの差が開いている（図5.3）。

就労状況別でみると、男性の「正社員/自営業・個人事業主」では、「30分未満」と「30分以上1時間未満」を合わせた「1時間未満」の回答者が男性が42.3%に上ったのに対し、「非正規雇用」では23.8%となっており、「正社員/自営業・個人事業主」の方が会話時間が短い傾向となっている。女性は就労状況では男性ほど大きな違いは見られなかった（図5.4）。

【図5.3】休日の子供との会話時間：大人性別



【図5.4】休日の子供との会話時間：男女就労状況別



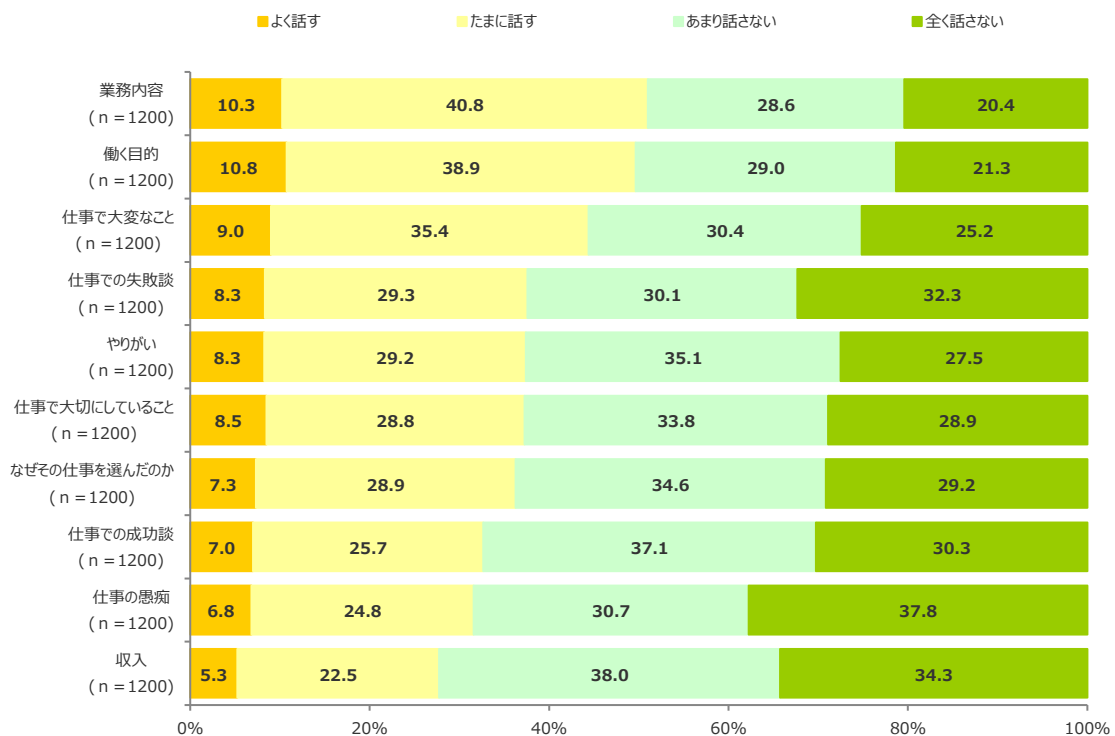
子供に自身の仕事の話をするか

中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身の仕事について子供にどのような話をしているかを聞いた。「よく話す」と「たまに話す」の合計値が高い順に、「業務内容」51.1%、「働く目的」49.7%、「仕事で大変なこと」44.4%、「仕事での失敗談」37.6%、「やりがい」37.5%、「仕事で大切にしていること」37.3%、「なぜその仕事を選んだのか」36.2%、「仕事での成功談」32.7%、「仕事の愚痴」31.6%、「収入」27.8%となっている。「全く話さない」が高かったのは、「仕事の愚痴」37.8%、「収入」34.3%、「仕事の失敗談」32.3%となっており、仕事の現実的な面やネガティブな部分には触れないようにしている親も多いようだ（図6.1）。

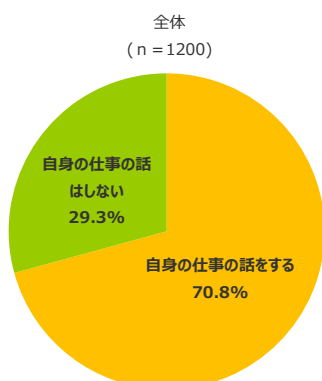
10項目の内容のいずれかについて「よく話す」または「たまに話す」を回答した者を「自身の仕事の話をする」、それ以外の者を「自身の仕事の話はしない」に分類し再集計した。話の内容にかかわらず、全体として「自身の仕事の話をする」は70.8%、「自身の仕事の話はしない」は29.3%となった（図6.2）。

これを労働日の会話時間別にみると、子供との会話が「2時間以上」の者では「自身の話をする」が83.4%となり、他の時間数の者よりも高くなった。「30分未満」の者と比べると26.6ポイント差となっている（図6.3）。

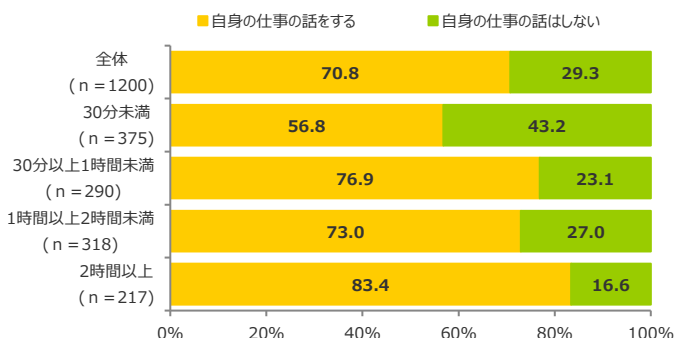
【図6.1】子供に自身の仕事の話をするか



【図6.2】子供に自身の仕事の話をするか（10項目統合）



【図6.3】子供に自身の仕事の話をするか（10項目統合）
：労働日の会話時間別



①業務内容

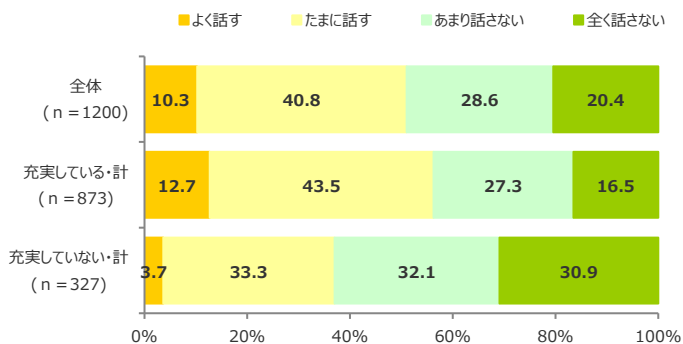
中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身の仕事について子供にどのような話をしているかを聞いた。「業務内容」については、全体では「よく話す」10.3%、「たまに話す」40.8%、「あまり話さない」28.6%、「全く話さない」20.4%となった。

大人の性別でみると、女性では「よく話す」「たまに話す」が合わせて60.0%となり、男性よりも大幅に高くなっている（図6.4）。

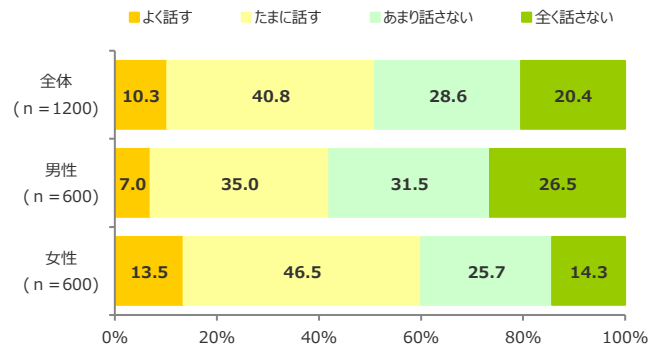
仕事の充実度別でみると、「充実していない・計」では「全く話さない」が30.9%となり、「充実している・計」の2倍近くに上った（図6.5）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「よく話す」「たまに話す」の合計値も高くなっていた（図6.6）。

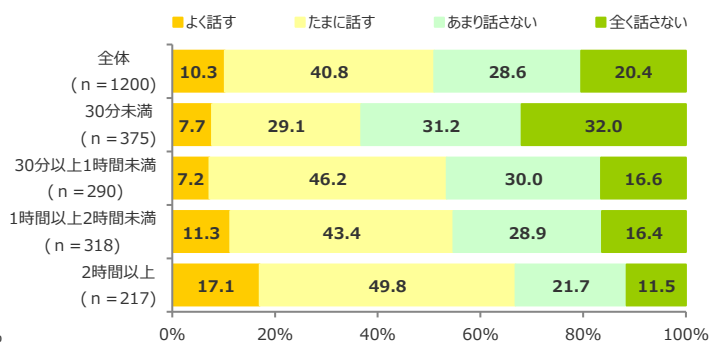
【図6.5】子供に自身の仕事の話をするか①
：仕事の充実度別



【図6.4】子供に自身の仕事の話をするか①：大人性別



【図6.6】子供に自身の仕事の話をするか①
：労働日の会話時間別



②働く目的

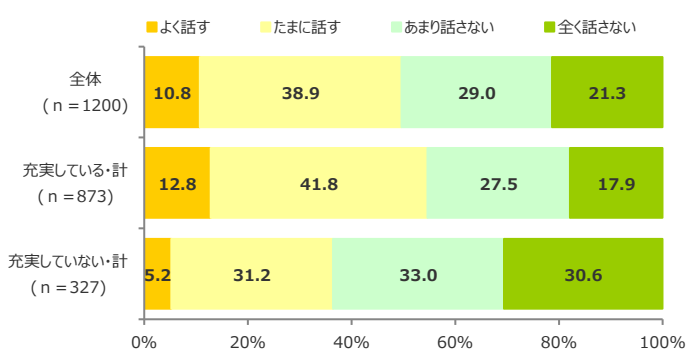
中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身の仕事について子供にどのような話をしているかを聞いた。「働く目的」については、全体では、「よく話す」10.8%、「たまに話す」38.9%、「あまり話さない」29.0%、「全く話さない」21.3%となった。

大人の性別でみると、女性では「よく話す」「たまに話す」が合わせて56.2%となり、男性よりも大幅に高くなっている（図6.7）。

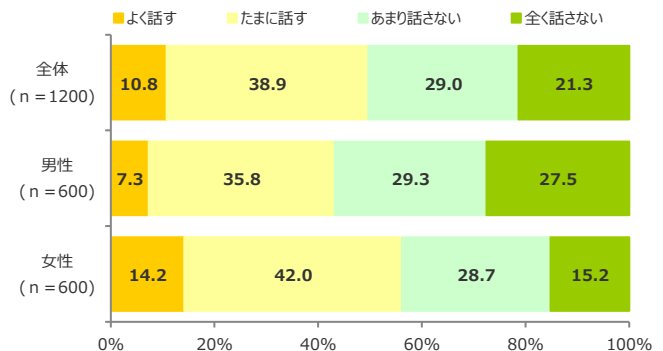
仕事の充実度別でみると、「充実していない・計」では「全く話さない」が30.6%となり、「充実している・計」よりも12.7ポイント高くなった（図6.8）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「よく話す」「たまに話す」の合計値も高くなっていた（図6.9）。

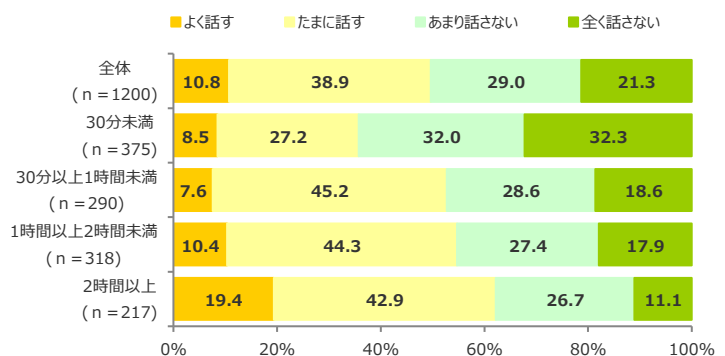
【図6.8】子供に自身の仕事の話をするか②
：仕事の充実度別



【図6.7】子供に自身の仕事の話をするか②：大人性別



【図6.9】子供に自身の仕事の話をするか②
：労働日の会話時間別



③仕事で大変なこと

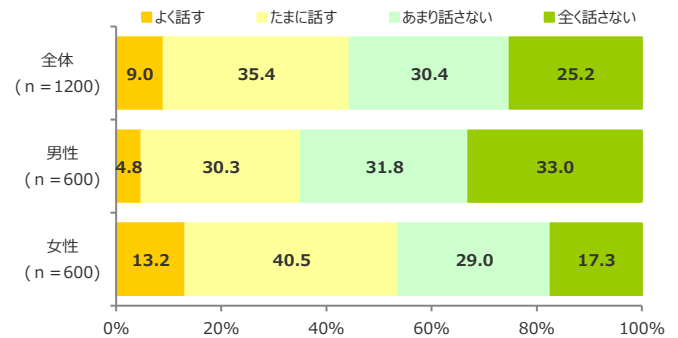
中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身の仕事について子供にどのような話をしているかを聞いた。「仕事で大変なこと」については、全体では、「よく話す」9.0%、「たまに話す」35.4%、「あまり話さない」30.4%、「全く話さない」25.2%となった。

大人の性別でみると、男性では「よく話す」「たまに話す」が合わせて35.1%と、女性より18.6ポイント低くなっていた。（図6.10）。

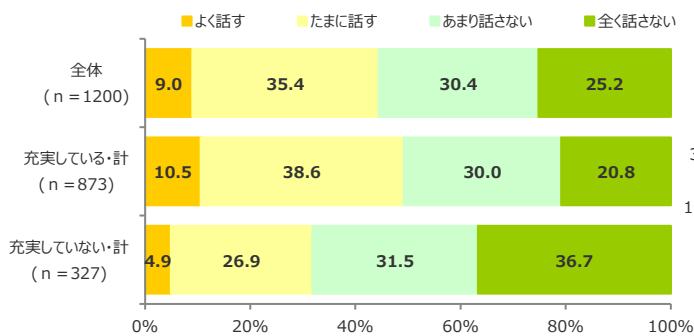
仕事の充実度別でみると、「充実していない・計」では「全く話さない」が36.7%となり、「充実している・計」よりも15.9ポイント高くなっている（図6.11）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「よく話す」「たまに話す」の合計値も高くなっていた（図6.12）。

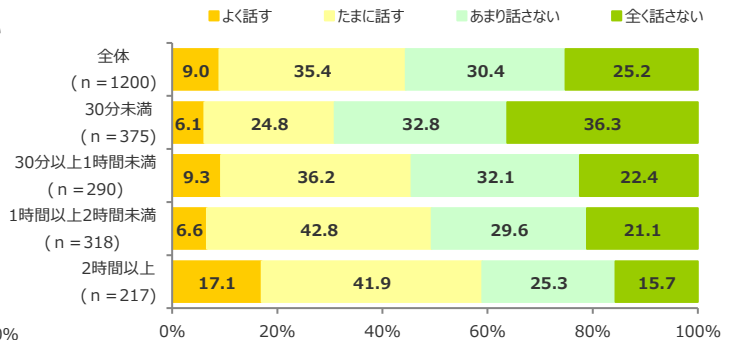
【図6.10】子供に自身の仕事の話をするか③：大人性別



【図6.11】子供に自身の仕事の話をするか③
：仕事の充実度別



【図6.12】子供に自身の仕事の話をするか③
：労働日の会話時間別



④仕事での失敗談

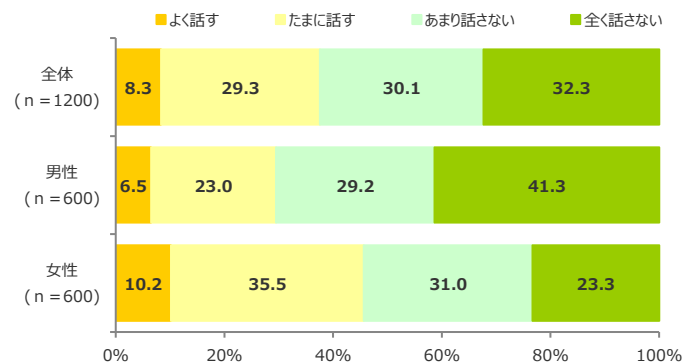
中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身の仕事について子供にどのような話をしているかを聞いた。「仕事での失敗談」については、全体では、「よく話す」8.3%、「たまに話す」29.3%、「あまり話さない」30.1%、「全く話さない」32.3%となった。

大人の性別でみると、男性では41.3%が「全く話さない」と回答した（図6.13）。

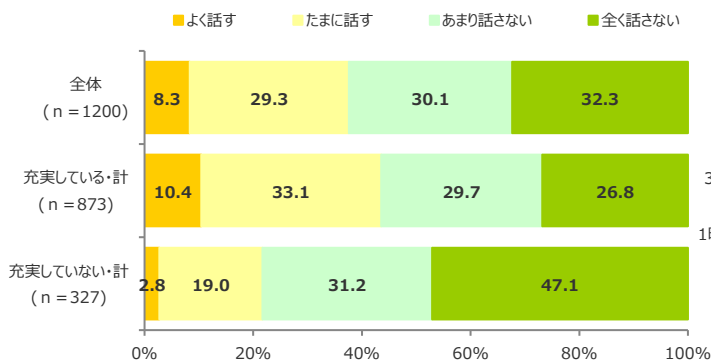
仕事の充実度別でみると、「充実していない・計」では「全く話さない」が47.1%となり、半数近くに上る（図6.14）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「よく話す」「たまに話す」の合計値も高くなっていた（図6.15）。

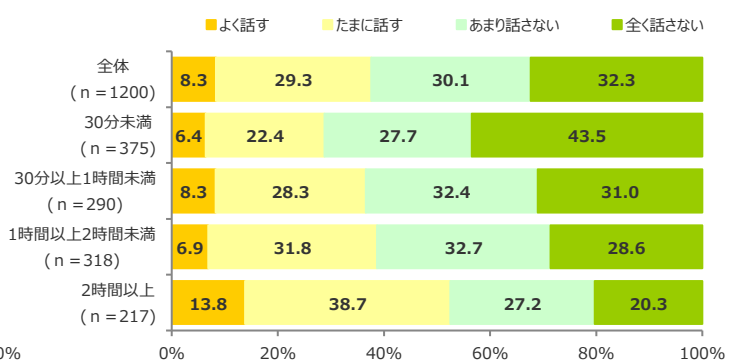
【図6.13】子供に自身の仕事の話をするか④：大人性別



【図6.14】子供に自身の仕事の話をするか④
：仕事の充実度別



【図6.15】子供に自身の仕事の話をするか④
：労働日の会話時間別



⑤やりがい

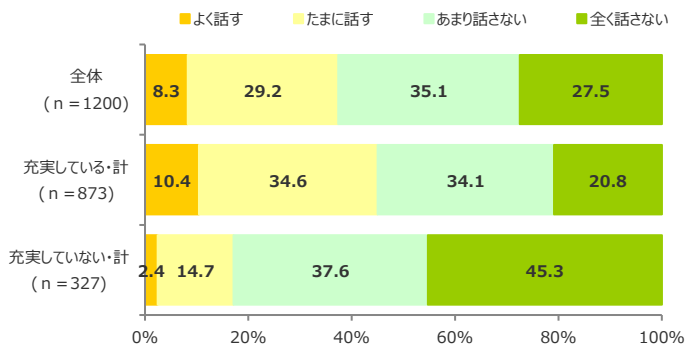
中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身の仕事について子供にどのような話をしているかを聞いた。「やりがい」については、全体では、「よく話す」8.3%、「たまに話す」29.2%、「あまり話さない」35.1%、「全く話さない」27.5%となった。

大人の性別でみると、男性では33.8%が「全く話さない」と回答した（図6.16）。

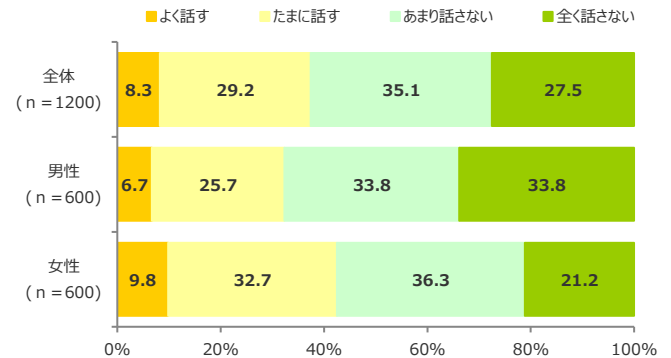
仕事の充実度別でみると、「よく話す」「たまに話す」の合計値は、「充実している・計」では45.0%となり半数に迫る一方、「充実していない・計」では17.1%に留まり、大きな差が出ている（図6.17）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「よく話す」「たまに話す」の合計値も高くなっており、「2時間以上」の者では53.5%に上る（図6.18）。

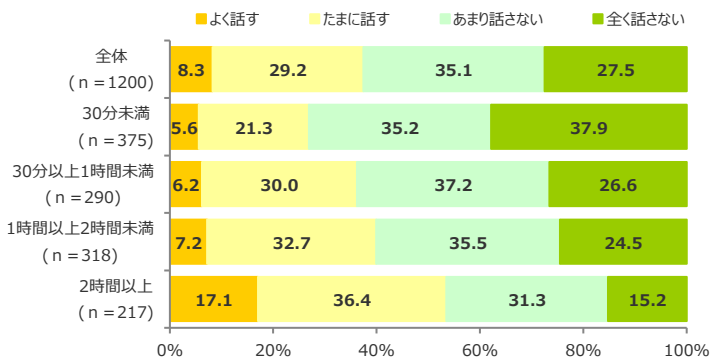
【図6.17】子供に自身の仕事の話をするか⑤
：仕事の充実度別



【図6.16】子供に自身の仕事の話をするか⑤：大人性別



【図6.18】子供に自身の仕事の話をするか⑤
：労働日の会話時間別



⑥仕事で大切にしていること

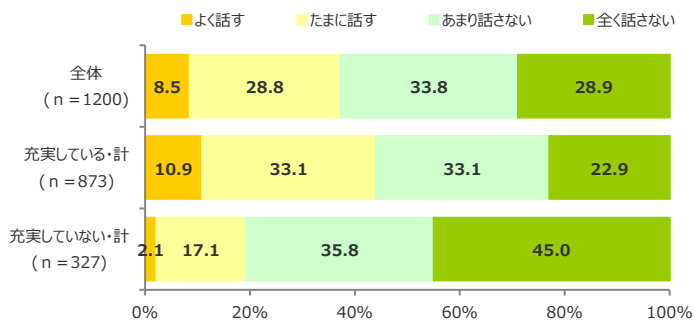
中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身の仕事について子供にどのような話をしているかを聞いた。「仕事で大切にしていること」については、全体では、「よく話す」8.5%、「たまに話す」28.8%、「あまり話さない」33.8%、「全く話さない」28.9%となった。

大人の性別でみると、男性では34.0%が「全く話さない」と回答した（図6.19）。

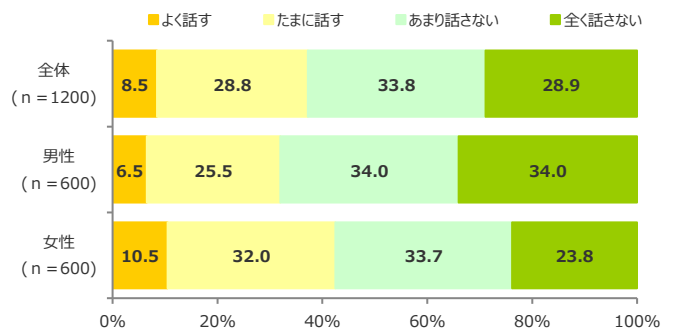
仕事の充実度別でみると、「よく話す」「たまに話す」の合計値は、「充実している・計」では44.0%となった一方、「充実していない・計」では19.2%に留まり、大きな差が出ている（図6.20）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「よく話す」「たまに話す」の合計値も高くなっており、「2時間以上」の者では51.2%に上る（図6.21）。

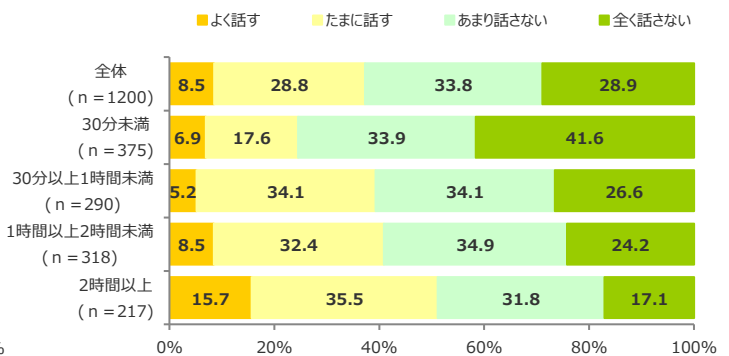
【図6.20】子供に自身の仕事の話をするか⑥
：仕事の充実度別



【図6.19】子供に自身の仕事の話をするか⑥：大人性別



【図6.21】子供に自身の仕事の話をするか⑥
：労働日の会話時間別



⑦なぜその仕事を選んだのか

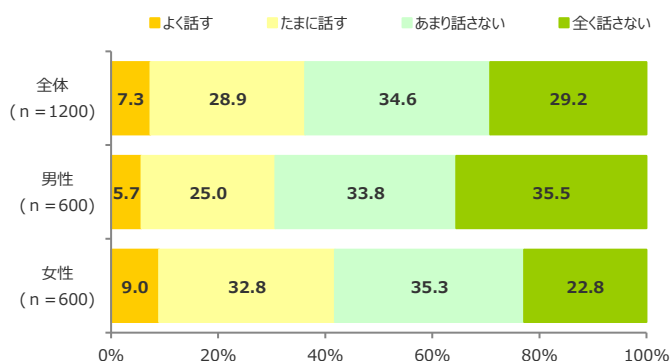
中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身の仕事について子供にどのような話をしているかを聞いた。「なぜその仕事を選んだのか」については、全体では、「よく話す」7.3%、「たまに話す」28.9%、「あまり話さない」34.6%、「全く話さない」29.2%となった。

大人の性別でみると、男性では35.5%が「全く話さない」と回答した（図6.22）。

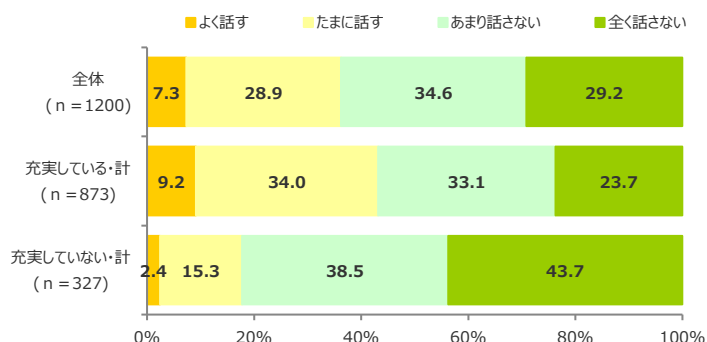
仕事の充実度別でみると、「よく話す」「たまに話す」の合計値は、「充実している・計」では43.2%となった一方、「充実していない・計」では17.7%に留まり、大きな差が出ている（図6.23）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「よく話す」「たまに話す」の合計値も高くなっており、「2時間以上」の者では50.2%に上る（図6.24）。

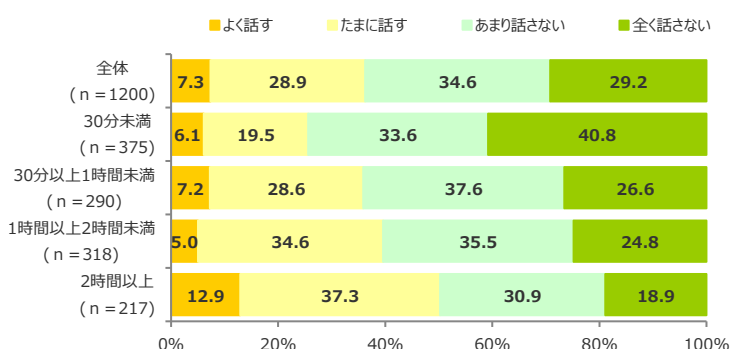
【図6.22】子供に自身の仕事の話をするか⑦：大人性別



【図6.23】子供に自身の仕事の話をするか⑦
：仕事の充実度別



【図6.24】子供に自身の仕事の話をするか⑦
：労働日の会話時間別



⑧仕事での成功談

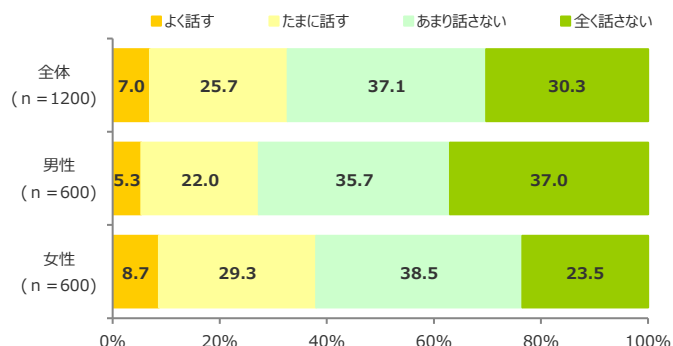
中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身の仕事について子供にどのような話をしているかを聞いた。「仕事での成功談」については、全体では、「よく話す」7.0%、「たまに話す」25.7%、「あまり話さない」37.1%、「全く話さない」30.3%となった。

大人の性別でみると、男性では37.0%が「全く話さない」と回答した（図6.25）。

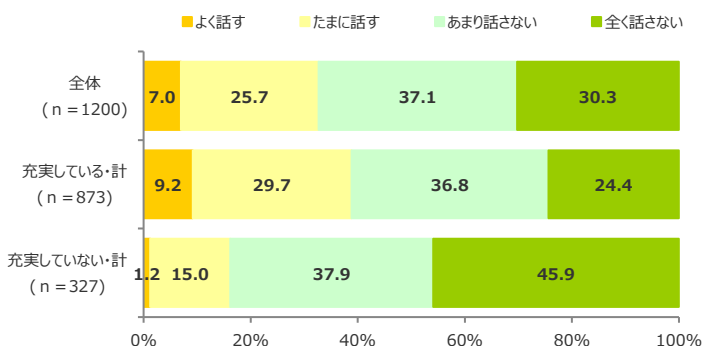
仕事の充実度別でみると、「充実していない・計」では「全く話さない」が45.9%と約半数に上った（図6.26）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「よく話す」「たまに話す」の合計値も高くなっていく（図6.27）。

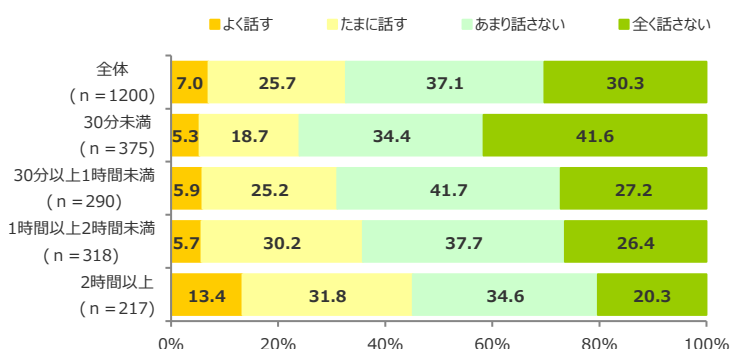
【図6.25】子供に自身の仕事の話をするか⑧：大人性別



【図6.26】子供に自身の仕事の話をするか⑧
：仕事の充実度別



【図6.27】子供に自身の仕事の話をするか⑧
：労働日の会話時間別



⑨仕事の愚痴

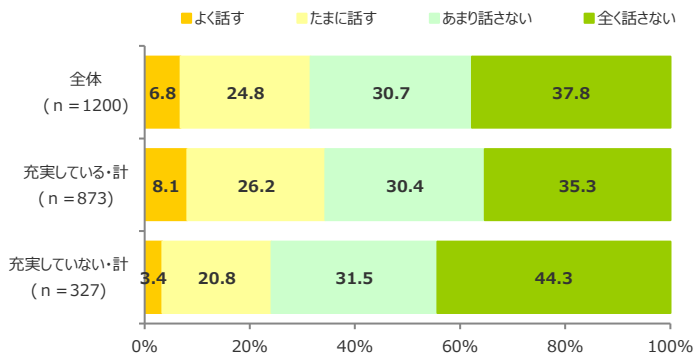
中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身の仕事について子供にどのような話をしているかを聞いた。「仕事の愚痴」については、全体では、「よく話す」6.8%、「たまに話す」24.8%、「あまり話さない」30.7%、「全く話さない」37.8%となった。

大人の性別でみると、男性では約半数の48.2%が「全く話さない」と回答した（図6.28）。

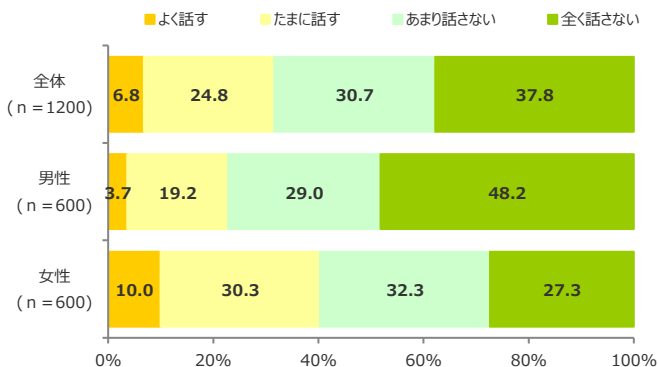
仕事の充実度別でみると、「よく話す」「たまに話す」の合計値は、「充実している・計」では34.3%、「充実していない・計」では24.2%と10.1ポイントの差があったものの、①～⑧、⑩ほど差は開いていないのが特徴である（図6.29）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「よく話す」「たまに話す」の合計値も高くなっていく（図6.30）。

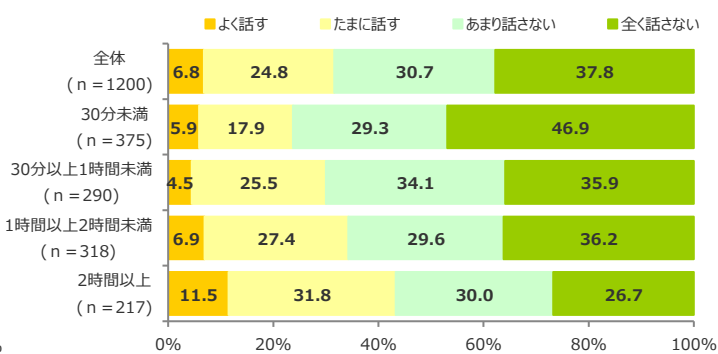
【図6.29】子供に自身の仕事の話をするか⑨
：仕事の充実度別



【図6.28】子供に自身の仕事の話をするか⑨：大人性別



【図6.30】子供に自身の仕事の話をするか⑨
：労働日の会話時間別



⑩収入

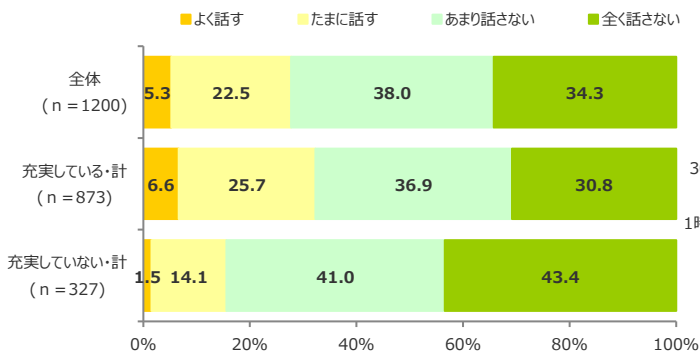
中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身の仕事について子供にどのような話をしているかを聞いた。「収入」については、全体では、「よく話す」5.3%、「たまに話す」22.5%、「あまり話さない」38.0%、「全く話さない」34.3%となった。

大人の性別でみると、男性の38.7%、女性の29.8%が「全く話さない」と回答した（図6.31）。

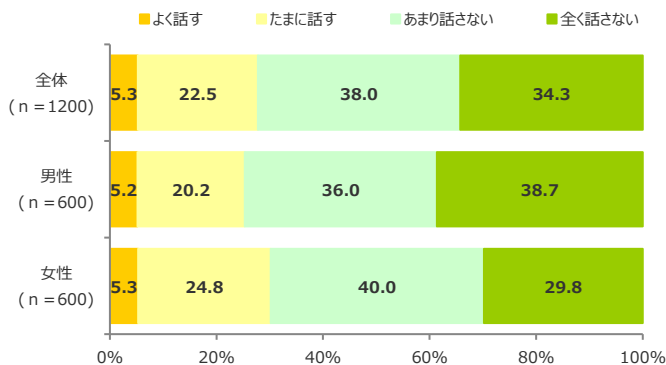
仕事の充実度別でみると、「充実していない・計」では「全く話さない」が43.4%に上っている（図6.32）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「よく話す」「たまに話す」の合計値も高くなっていく（図6.33）。

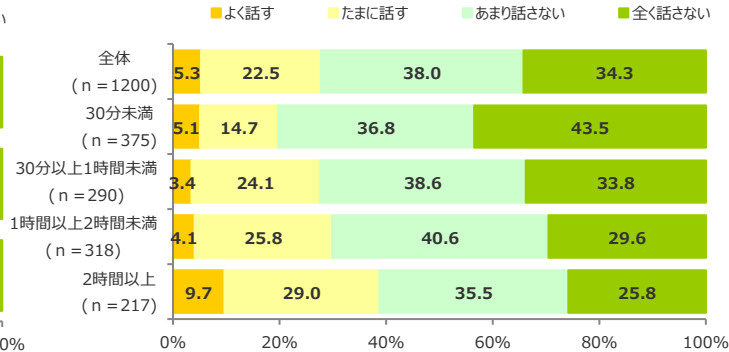
【図6.32】子供に自身の仕事の話をするか⑩
：仕事の充実度別



【図6.31】子供に自身の仕事の話をするか⑩：大人性別



【図6.33】子供に自身の仕事の話をするか⑩
：労働日の会話時間別



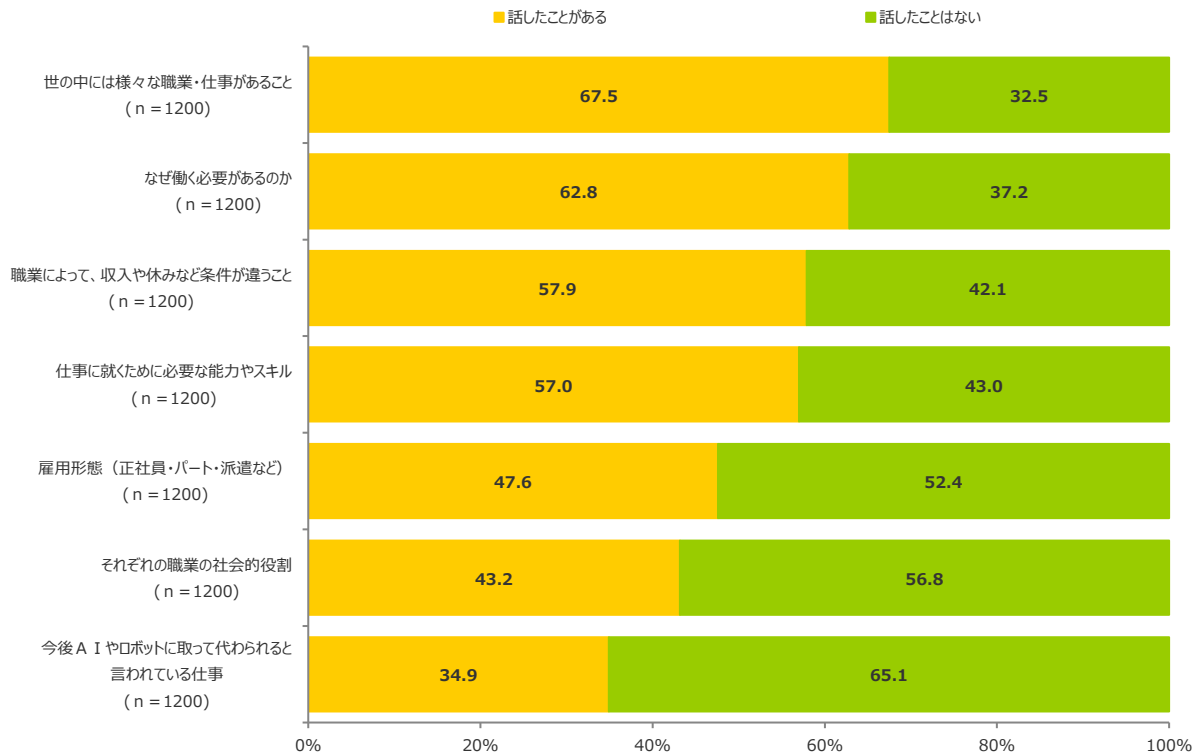
子供に世の中の職業・仕事の話をするか

中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身の仕事だけでなく、世の中の「職業・仕事」について子供と話す機会があるかを聞いた。「話したことがある」の回答割合が高い順に「世の中には様々な職業・仕事があること」67.5%、「なぜ働く必要があるのか」62.8%、「職業によって、収入や休みなど条件が違ふこと」57.9%、「仕事に就くために必要な能力やスキル」57.0%となっている（図7.1）。

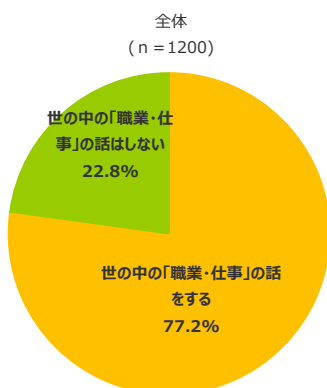
7項目の内容のいずれかについて「話したことがある」を回答した者を「世の中の『職業・仕事』の話をする」、それ以外の者を「世の中の『職業・仕事』の話はしない」に分類し再集計した。話の内容にかかわらず、全体として「世の中の『職業・仕事』の話をする」は77.2%、「世の中の『職業・仕事』の話はしない」は22.8%となった（図7.2）。

これを労働日の会話時間別にみると、子供との会話が「2時間以上」の者では「世の中の『職業・仕事』の話をする」が85.7%となり、他の時間数の者よりも高くなった。「30分未満」の者と比べると19.8ポイント差となっている（図7.3）。

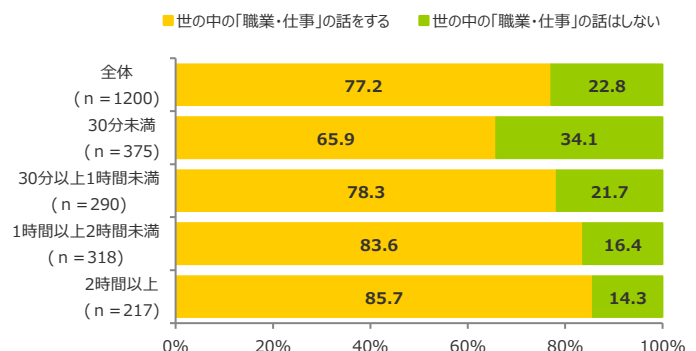
【図7.1】子供に世の中の職業・仕事の話をするか



【図7.2】子供に世の中の職業・仕事の話をするか（7項目統合）



【図7.3】子供に世の中の職業・仕事の話をするか（7項目統合）：労働日の会話時間別



①世の中には様々な職業・仕事があること

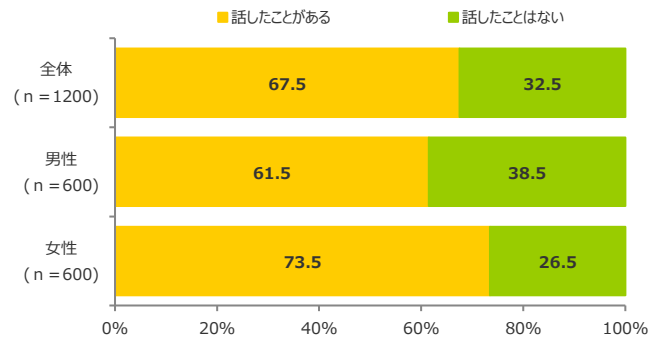
中学校1-3年生の子供がいる男女に、世の中の「職業・仕事」について子供と話す機会があるかを聞いた。「世の中には様々な職業・仕事があること」については、全体では「話したことがある」67.5%、「話したことはない」32.5%となった。

大人の性別でみると、女性では73.5%が「話したことがある」と回答し、男性を12.0ポイント上回っていた（図7.4）。

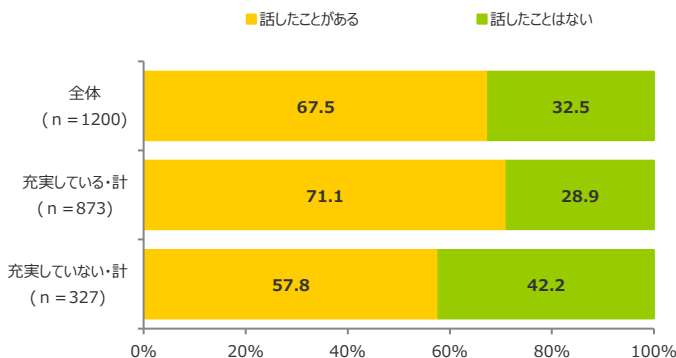
仕事の充実度別でみると、「充実している・計」では「話したことがある」が71.1%に上り、「充実していない・計」と13.3ポイント差となった（図7.5）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「話したことがある」の回答割合も高くなっていく。「2時間以上」の者では77.0%に上った（図7.6）。

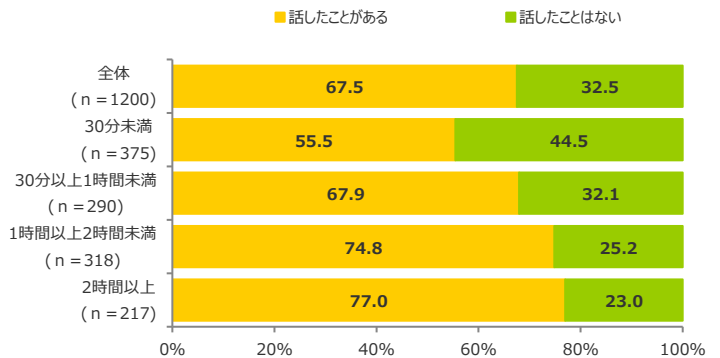
【図7.4】子供に世の中の職業・仕事の話をするか①：大人性別



【図7.5】子供に世の中の職業・仕事の話をするか①
：仕事の充実度別



【図7.6】子供に世の中の職業・仕事の話をするか①
：労働日の会話時間別



②なぜ働く必要があるのか

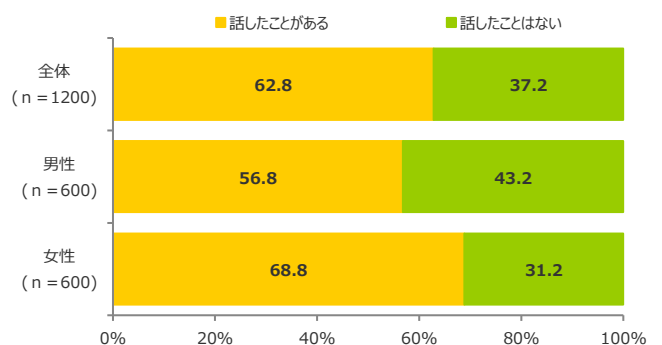
中学校1-3年生の子供がいる男女に、世の中の「職業・仕事」について子供と話す機会があるかを聞いた。「なぜ働く必要があるのか」については、全体では「話したことがある」62.8%、「話したことはない」37.2%となった。

大人の性別でみると、女性では68.8%が「話したことがある」と回答し、男性を12.0ポイント上回っていた（図7.7）。

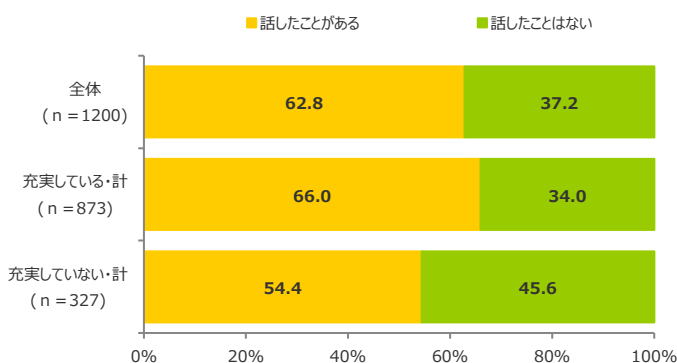
仕事の充実度別でみると、「充実している・計」では「話したことがある」が66.0%に上り、「充実していない・計」と11.6ポイント差となった（図7.8）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「話したことがある」の回答割合も高くなっていく。「2時間以上」の者では73.7%に上った（図7.9）。

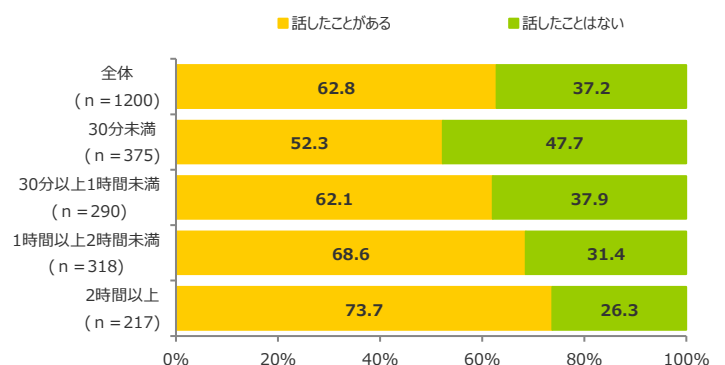
【図7.7】子供に世の中の職業・仕事の話をするか②：大人性別



【図7.8】子供に世の中の職業・仕事の話をするか②
：仕事の充実度別



【図7.9】子供に世の中の職業・仕事の話をするか②
：労働日の会話時間別



③職業によって、収入や休みなど条件が違ふこと

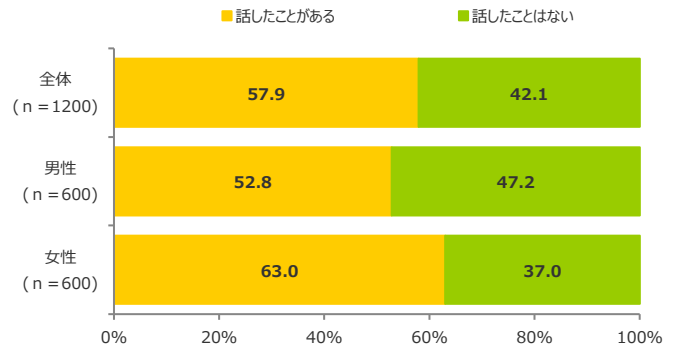
中学校1-3年生の子供がいる男女に、世の中の「職業・仕事」について子供と話す機会があるかを聞いた。「職業によって、収入や休みなど条件が違ふこと」については、全体では「話したことがある」57.9%、「話したことはない」42.1%となった。

大人の性別でみると、女性では63.0%が「話したことがある」と回答し、男性を10.2ポイント上回っていた（図7.10）。

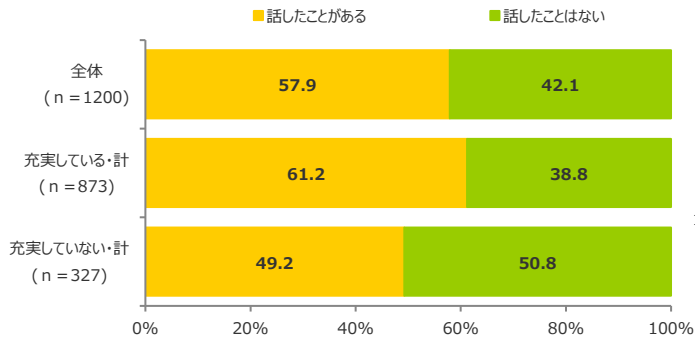
仕事の充実度別でみると、「充実している・計」では「話したことがある」が61.2%に上り、「充実していない・計」と12.0ポイント差となった（図7.11）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「話したことがある」の回答割合も概ね高くなっていく傾向が見られた（図7.12）。

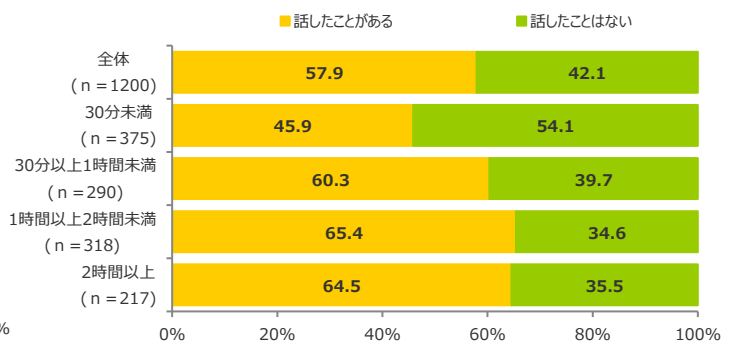
【図7.10】子供に世の中の職業・仕事の話をするか③：大人性別



【図7.11】子供に世の中の職業・仕事の話をするか③：仕事の充実度別



【図7.12】子供に世の中の職業・仕事の話をするか③：労働日の会話時間別



④仕事に就くために必要な能力やスキル

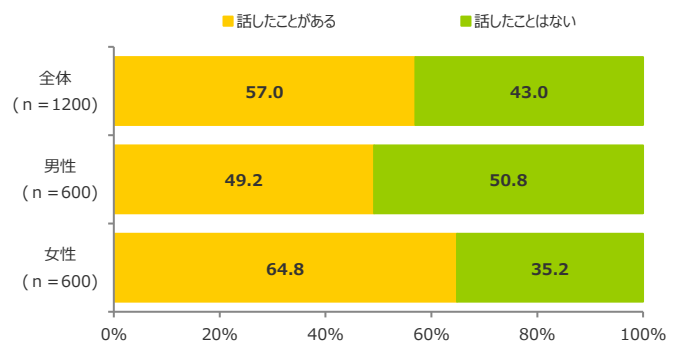
中学校1-3年生の子供がいる男女に、世の中の「職業・仕事」について子供と話す機会があるかを聞いた。「仕事に就くために必要な能力やスキル」については、全体では「話したことがある」57.0%、「話したことはない」43.0%となった。

大人の性別でみると、女性では64.8%が「話したことがある」と回答し、男性を15.6ポイント上回っていた（図7.13）。

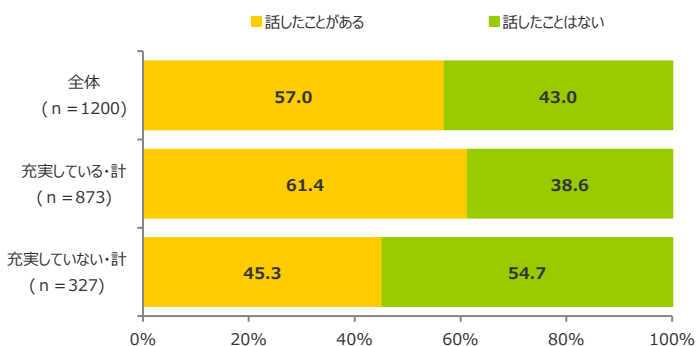
仕事の充実度別でみると、「充実している・計」では「話したことがある」が61.4%に上り、「充実していない・計」と16.1ポイント差となった（図7.14）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「話したことがある」の回答割合も高くなっていく（図7.15）。

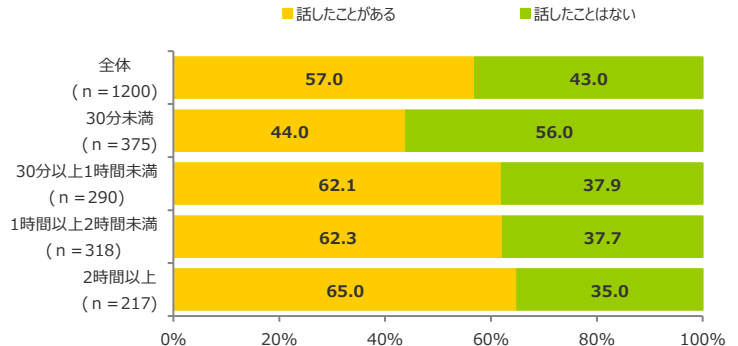
【図7.13】子供に世の中の職業・仕事の話をするか④：大人性別



【図7.14】子供に世の中の職業・仕事の話をするか④：仕事の充実度別



【図7.15】子供に世の中の職業・仕事の話をするか④：労働日の会話時間別



⑤雇用形態（正社員・パート・派遣など）

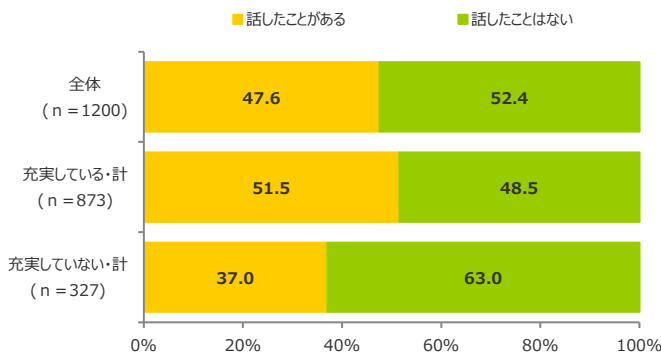
中学校1-3年生の子供がいる男女に、世の中の「職業・仕事」について子供と話す機会があるかを聞いた。「雇用形態（正社員・パート・派遣など）」については、全体では「話したことがある」47.6%、「話したことはない」52.4%となった。

大人の性別でみると、女性では55.5%が「話したことがある」と回答し、男性を15.8ポイント上回っていた（図7.16）。

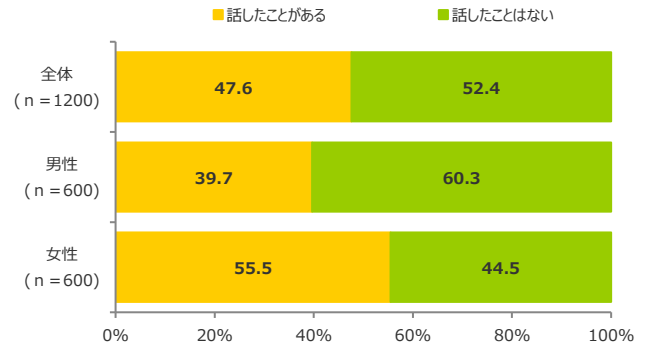
仕事の充実度別でみると、「充実している・計」では「話したことがある」が51.5%に上り、「充実していない・計」と14.5ポイント差となった（図7.17）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「話したことがある」の回答割合も概ね高くなっていく傾向が見られた（図7.18）。

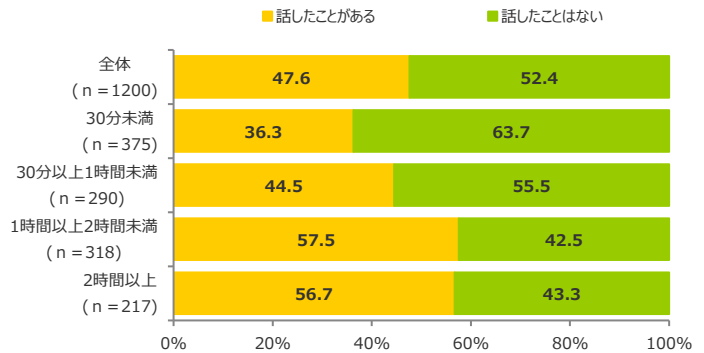
【図7.17】子供に世の中の職業・仕事の話をするか⑤：仕事の充実度別



【図7.16】子供に世の中の職業・仕事の話をするか⑤：大人性別



【図7.18】子供に世の中の職業・仕事の話をするか⑤：労働日の会話時間別



⑥それぞれの職業の社会的役割

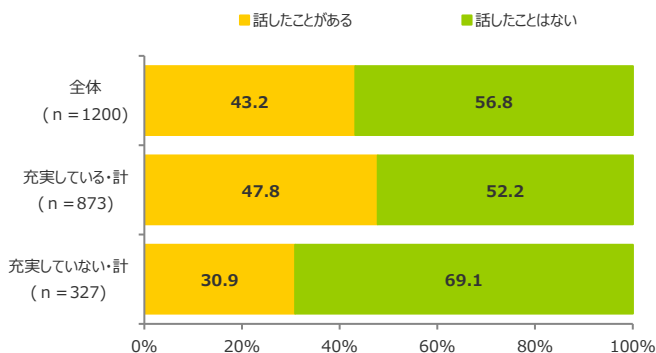
中学校1-3年生の子供がいる男女に、世の中の「職業・仕事」について子供と話す機会があるかを聞いた。「それぞれの職業の社会的役割」については、「話したことがある」43.2%、「話したことはない」56.8%となった。

大人の性別でみると、女性では47.3%が「話したことがある」と回答し、男性を8.3ポイント上回っていた。①～⑤の内容に比べると男女差が小さく、男女ともにあまり話題にしない内容のようだ（図7.19）。

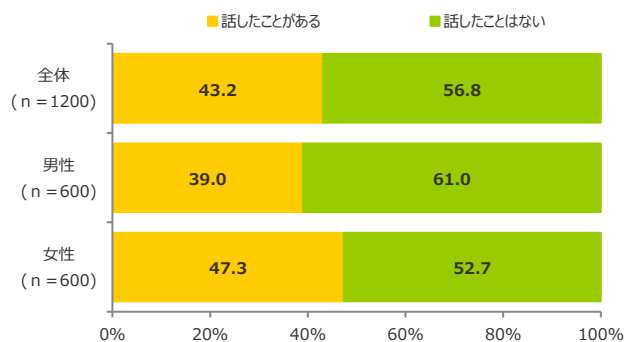
仕事の充実度別でみると、「充実している・計」では「話したことがある」が47.8%に上り、「充実していない・計」と16.9ポイントの差があった（図7.20）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「話したことがある」の回答割合も高くなっていく（図7.21）。

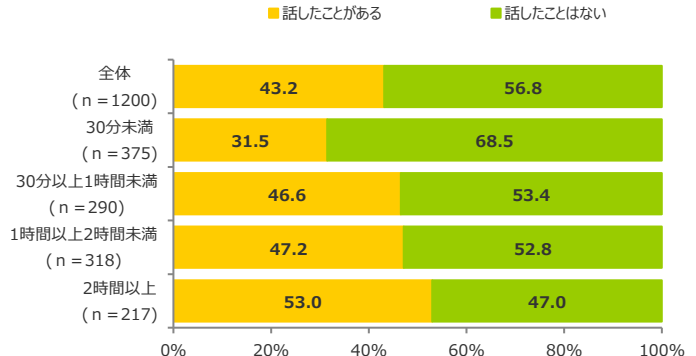
【図7.20】子供に世の中の職業・仕事の話をするか⑥：仕事の充実度別



【図7.19】子供に世の中の職業・仕事の話をするか⑥：大人性別



【図7.21】子供に世の中の職業・仕事の話をするか⑥：労働日の会話時間別



⑦今後AIやロボットなどに取って代わられると言われている仕事

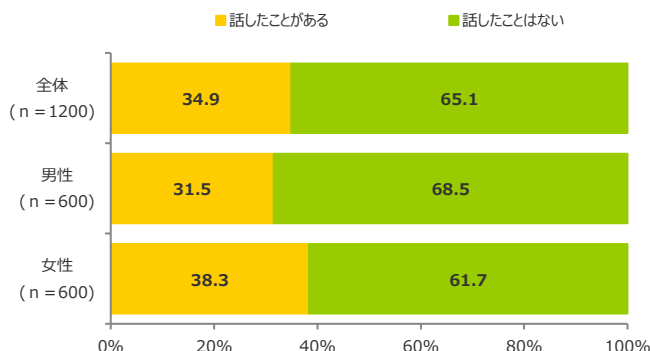
中学校1-3年生の子供がいる男女に、世の中の「職業・仕事」について子供と話す機会があるかを聞いた。「今後AIやロボットなどに取って代わられると言われている仕事」については、全体では「話したことがある」34.9%、「話したことはない」65.1%となった。

大人の性別でみると、女性では38.3%が「話したことがある」と回答し、男性を6.8ポイント上回っていた。⑥と同様に①～⑤の内容に比べると男女差が小さく、男女ともにあまり話題にしない内容のようだ（図7.22）。

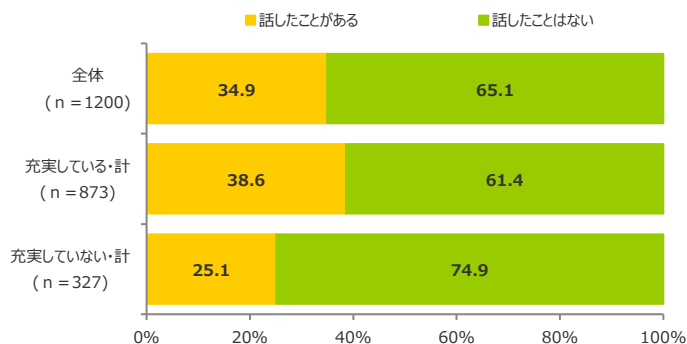
仕事の充実度別でみると、「充実している・計」では「話したことがある」が38.6%に上った（図7.23）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長いほど「話したことがある」の回答割合も高くなる傾向があったが、①～⑥ほどの差は開いていなかった（図7.24）。

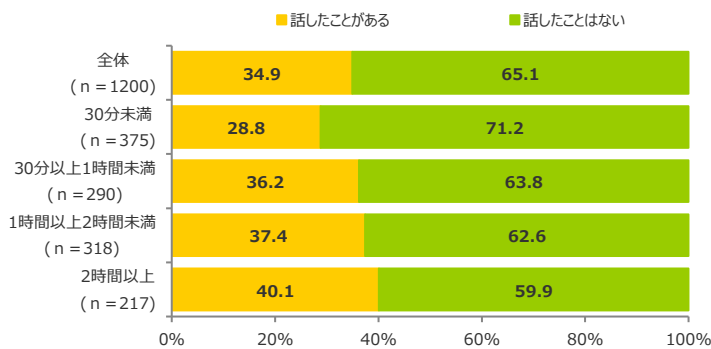
【図7.22】子供に世の中の職業・仕事の話をするか⑦：大人性別



【図7.23】子供に世の中の職業・仕事の話をするか⑦：仕事の充実度別



【図7.24】子供に世の中の職業・仕事の話をするか⑦：労働日の会話時間別



子供の将来選択への関わり方

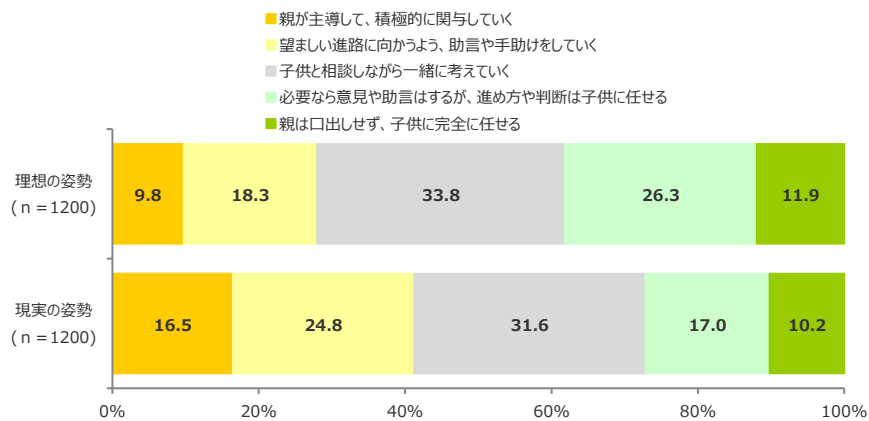
中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供の将来の選択において、親の立場からどの程度サポートしていきたいと考えているか「理想の姿勢」と「現実の姿勢」を聞いた。

「理想の姿勢」では、「子供と相談しながら一緒に考えていく」が最多で33.8%、次点は「必要なら意見や助言はするが、進め方や判断は子供に任せる」が26.3%となり、伴走もしくは見守りのスタンスが強い。しかし、「現実の姿勢」をみると、「子供と相談しながら一緒に考えていく」が最多なのは変わらないが、次点には「望ましい進路に向かうよう、助言や手助けをしていく」という誘導するスタンスが挙がった。また、「親が主導して、積極的に関与していく」も、「理想の姿勢」の9.8%から16.5%に伸びており、親としての理想はありつつも現実的にはある程度関与している様子がうかがえる（図8.1）。

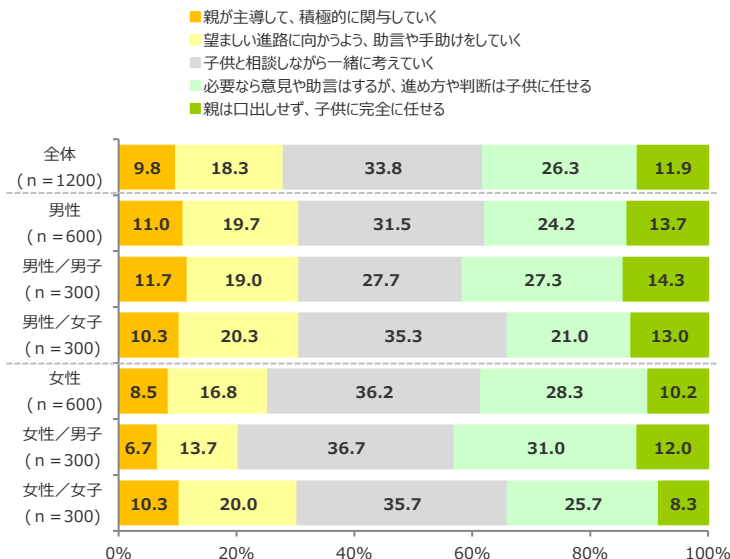
大人性別と子供性別でみると、「理想の姿勢」においては女親よりも男親の方が、子供の将来選択に強く関与したい様子がうかがえる（図8.2）。

「現実の姿勢」では、「男性／男子」の場合に親の関与がやや強くなっている傾向があるが、その他では大きな差は見られなかった（図8.3）。

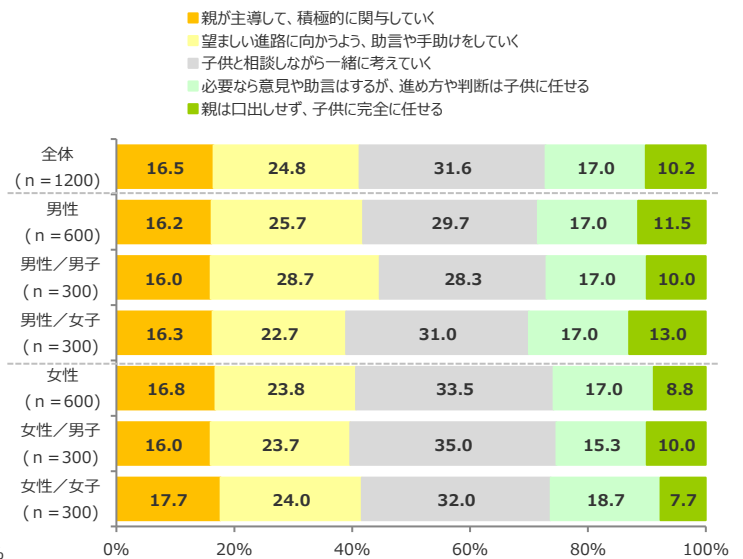
【図8.1】子供の将来選択への関わり方



【図8.2】子供の将来選択への関わり方（理想の姿勢）
：大人性別×子供性別



【図8.3】子供の将来選択への関わり方（現実の姿勢）
：大人性別×子供性別

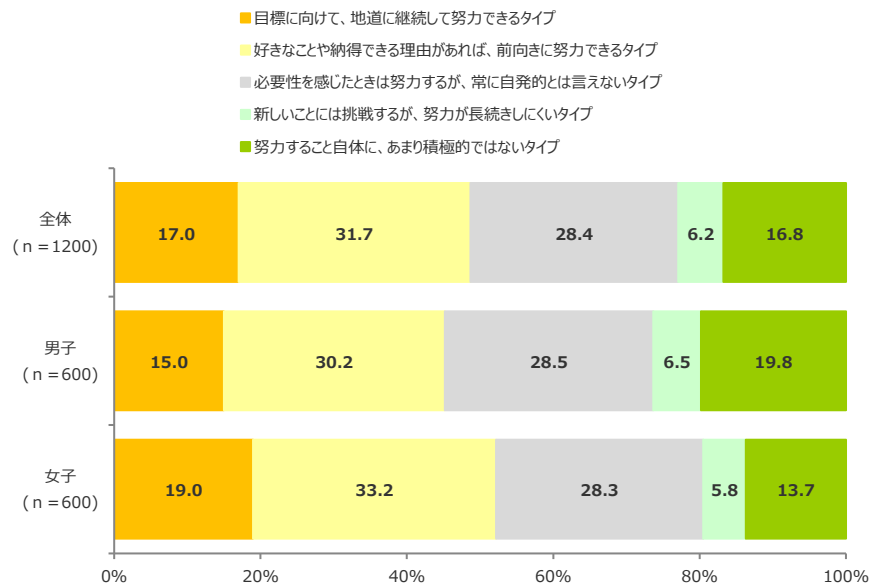


子供の努力タイプ

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供の「努力の姿勢」について聞くと、「目標に向けて、地道に継続して努力できるタイプ」17.0%、「好きなことや納得できる理由があれば、前向きに努力できるタイプ」31.7%、「必要性を感じたときは努力するが、常に自発的とは言えないタイプ」28.4%、「新しいことには挑戦するが、努力が長続きしにくいタイプ」6.2%、「努力すること自体に、あまり積極的ではないタイプ」16.8%となった。

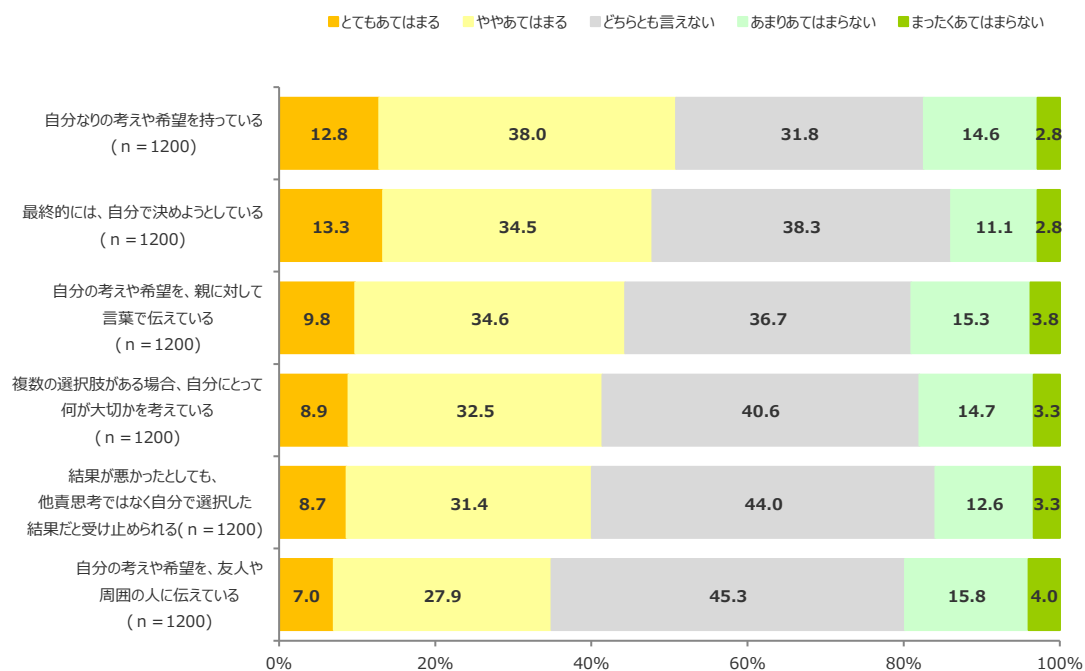
子供の性別でみると、女子は男子よりも「目標に向けて、地道に継続して努力できるタイプ」「好きなことや納得できる理由があれば、前向きに努力できるタイプ」がそれぞれ高くなっていた（図9）。

【図9】子供の努力タイプ：子供性別



中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供が物事（進路を含む）を考えたり決めたりする際の普段の行動や様子を聞いた。「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」の合計（「あてはまる・計」／以下同）が高かった順に、「自分なりの考えや希望を持っている」50.8%、「最終的には自分で決めようとしている」47.8%、「自分の考えや希望を、親に対して言葉で伝えている」44.4%、「複数の選択肢がある場合、自分にとって何が大切かを考えている」41.4%、「結果が悪かったとしても、他責思考ではなく自分で選択した結果だと受け止められる」40.1%、「自分の考えや希望を、友人や周囲の人に伝えている」34.9%となった。約4～5割の子供は、自分の意志を表明・決定し、その結果の責任も引き受けようとする主体的な姿が見られる（図10.1）。

【図10.1】子供の思考・行動傾向



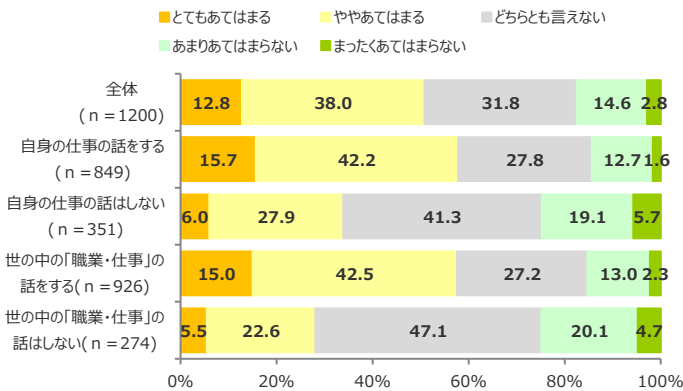
①自分なりの考えや希望を持っている

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供が物事（進路を含む）を考えたり決めたりする際の普段の行動や様子を聞いた。「自分なりの考えや希望を持っている」について子供の性別でみると、女子は「あてはまる・計」が55.0%となり男子よりも高い（図10.2）。

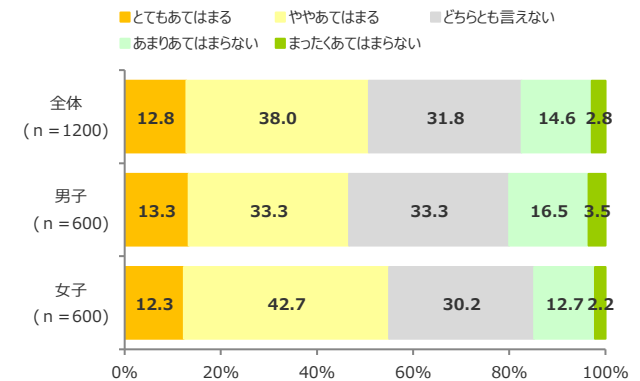
「6 子供に自身の仕事の話をするか」「7 子供に世の中の職業・仕事の話を有無別（以下同）」として関係をみた。親自身や世の中の話にかかわらず仕事の“話をする”場合は「あてはまる・計」が約6割に上り、“話はしない”場合よりも大幅に高くなっている（図10.3）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「あてはまる・計」の回答割合も高くなっていく（図10.4）。

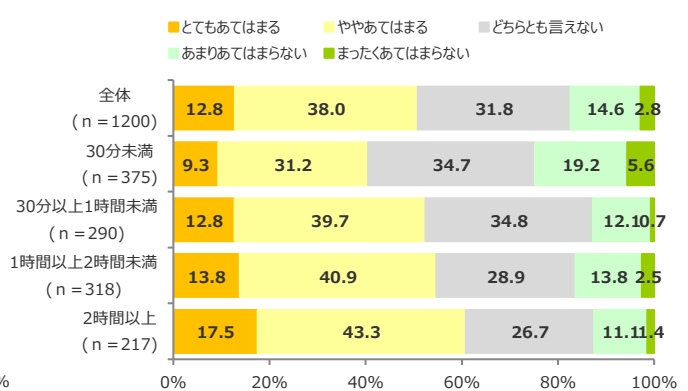
【図10.3】子供の思考・行動傾向①
：家庭での仕事・職業の話の有無別



【図10.2】子供の思考・行動傾向①：子供性別



【図10.4】子供の思考・行動傾向①：労働日の会話時間別



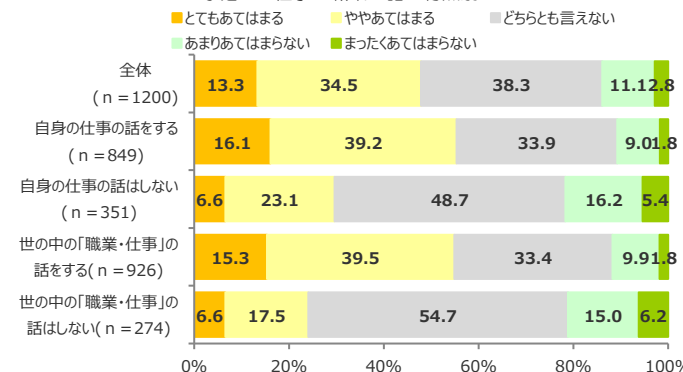
②最終的には、自分で決めようとしている

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供が物事（進路を含む）を考えたり決めたりする際の普段の行動や様子を聞いた。「最終的には、自分で決めようとしている」について子供の性別でみると、女子は「あてはまる・計」が51.2%となり男子よりも高い（図10.5）。

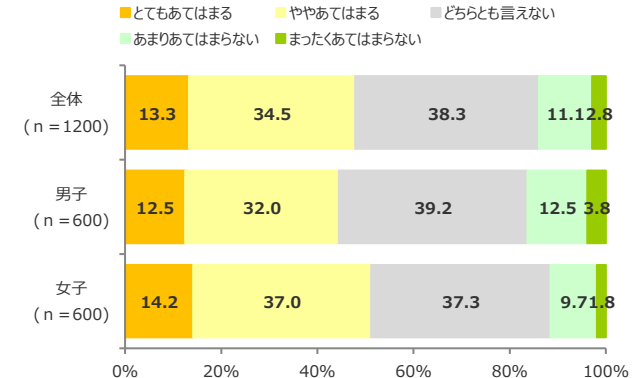
家庭での仕事・職業の話の有無別でみると、親自身や世の中の話にかかわらず仕事の“話をする”場合は、「あてはまる・計」が大幅に高くなっている（図10.6）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「あてはまる・計」の回答割合も高くなっていく（図10.7）。

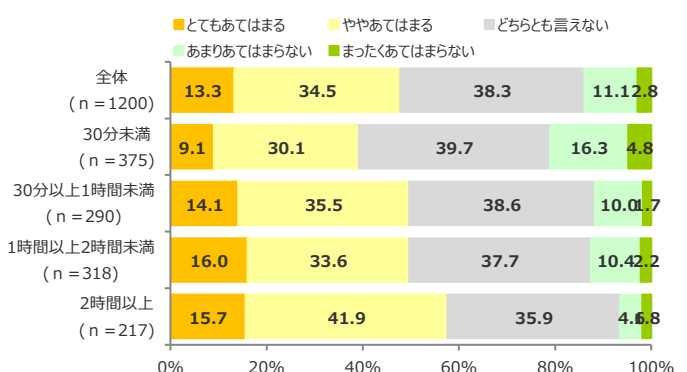
【図10.6】子供の思考・行動傾向②
：家庭での仕事・職業の話の有無別



【図10.5】子供の思考・行動傾向②：子供性別



【図10.7】子供の思考・行動傾向②：労働日の会話時間別



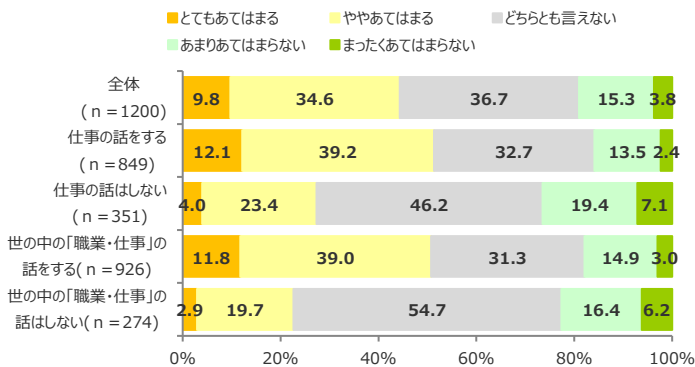
③自分の考えや希望を、親に対して言葉で伝えている

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供が物事（進路を含む）を考えたり決めたりする際の普段の行動や様子を聞いた。「自分の考えや希望を、親に対して言葉で伝えている」について子供の性別でみると、女子は「あてはまる・計」が49.6%となり男子よりも高い（図10.8）。

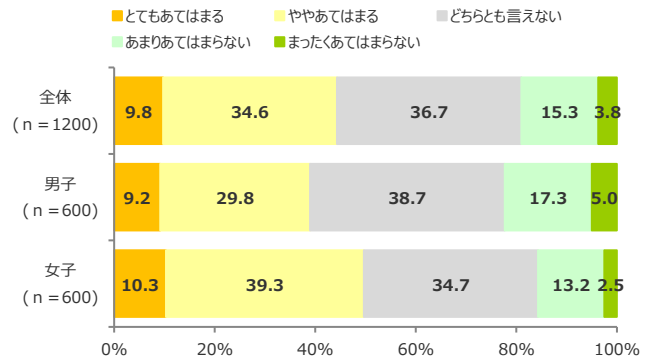
家庭での仕事・職業の話の有無別でみると、親自身や世の中の話にかかわらず仕事の“話をする”場合は「あてはまる・計」が約5割に上り、“話はしない”場合よりも大幅に高くなっている（図10.9）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「あてはまる・計」の回答割合も高くなっていく（図10.10）。

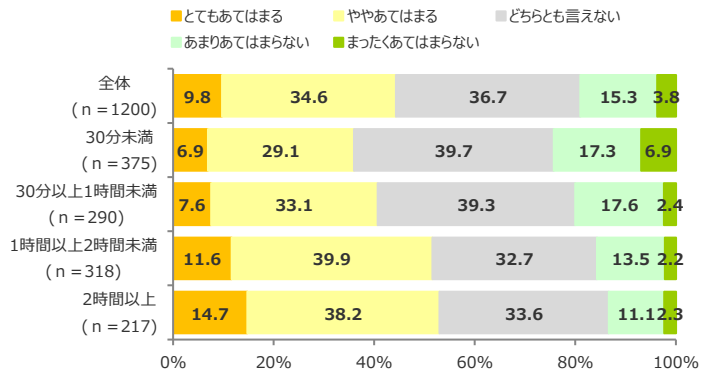
【図10.9】子供の思考・行動傾向③
：家庭での仕事・職業の話の有無別



【図10.8】子供の思考・行動傾向③：子供性別



【図10.10】子供の思考・行動傾向③：労働日の会話時間別



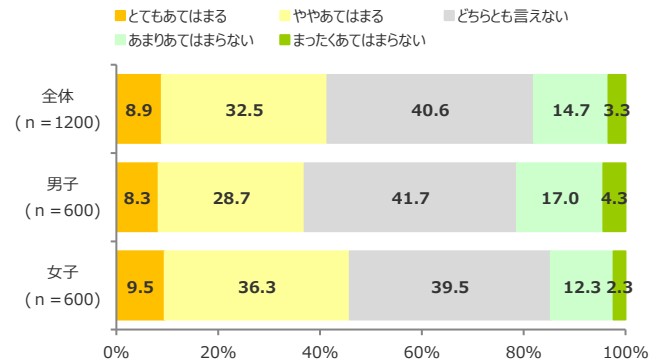
④複数の選択肢がある場合、自分にとって何が大切かを考えている

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供が物事（進路を含む）を考えたり決めたりする際の普段の行動や様子を聞いた。「複数の選択肢がある場合、自分にとって何が大切かを考えている」について子供の性別でみると、女子は「あてはまる・計」が45.8%となり男子よりも高い（図10.11）。

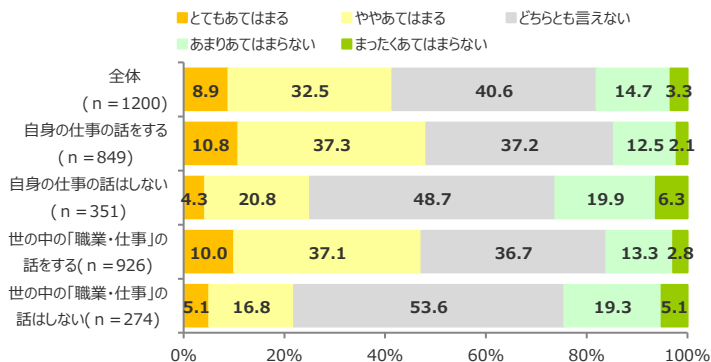
家庭での仕事・職業の話の有無別でみると、親自身や世の中の話にかかわらず仕事の“話をする”場合は「あてはまる・計」が約5割に上り、“話はしない”場合よりも大幅に高くなっている（図10.12）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「あてはまる・計」の回答割合も高くなっていく（図10.13）。

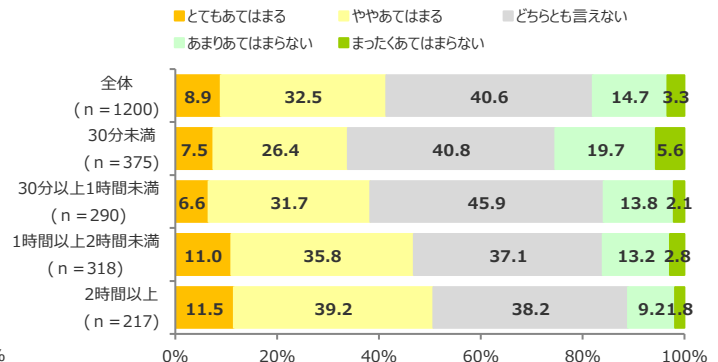
【図10.11】子供の思考・行動傾向④：子供性別



【図10.12】子供の思考・行動傾向④
：家庭での仕事・職業の話の有無別



【図10.13】子供の思考・行動傾向④：労働日の会話時間別



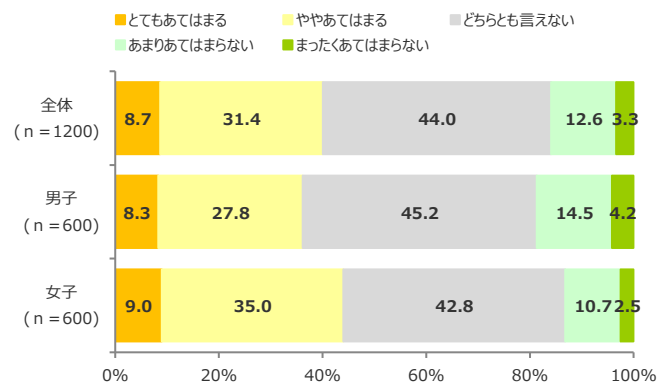
⑤結果が悪かったとしても、他責思考ではなく自分で選択した結果だと受け止められる

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供が物事（進路を含む）を考えたり決めたりする際の普段の行動や様子を聞いた。「結果が悪かったとしても、他責思考ではなく自分で選択した結果だと受け止められる」について子供の性別でみると、女子は「あてはまる・計」が44.0%となり男子よりも高くなった（図10.14）。

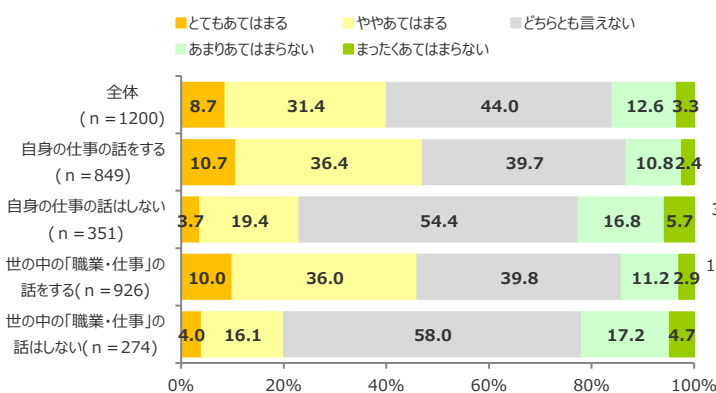
家庭での仕事・職業の話の有無別でみると、親自身や世の中の話にかかわらず仕事の“話をする”場合は、“話はしない”場合よりも「あてはまる・計」が大幅に高くなっている（図10.15）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「あてはまる・計」の回答割合も高くなっていく（図10.16）。

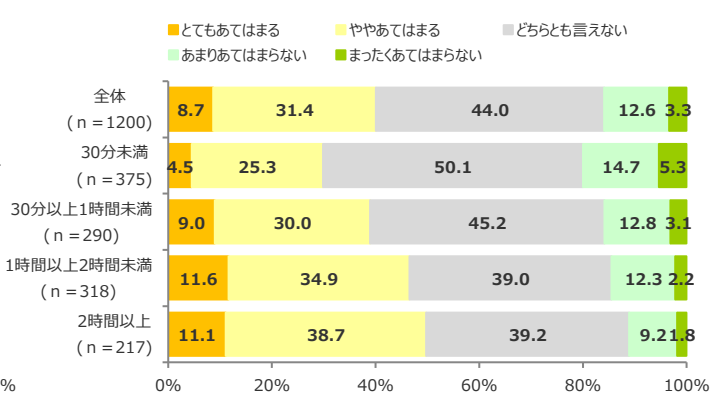
【図10.14】子供の思考・行動傾向⑤：子供性別



【図10.15】子供の思考・行動傾向⑤
：家庭での仕事・職業の話の有無別



【図10.16】子供の思考・行動傾向⑤：労働日の会話時間別



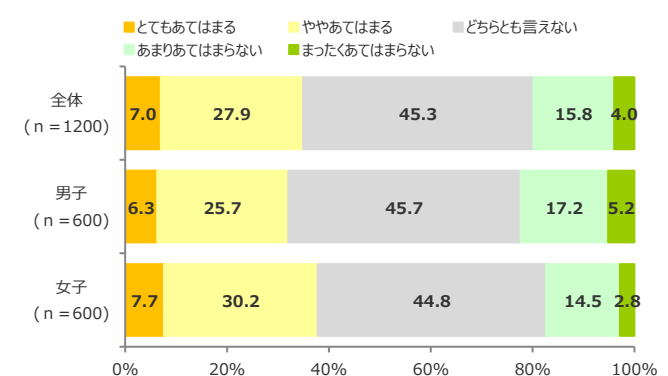
⑥自分の考えや希望を、友人や周囲の人に伝えている

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供が物事（進路を含む）を考えたり決めたりする際の普段の行動や様子を聞いた。「自分の考えや希望を、友人や周囲の人に伝えている」について子供の性別でみると、女子は「あてはまる・計」が37.9%となり男子よりも高くなったが、①～⑤と比較し、その男女差は最も小さい（図10.17）。

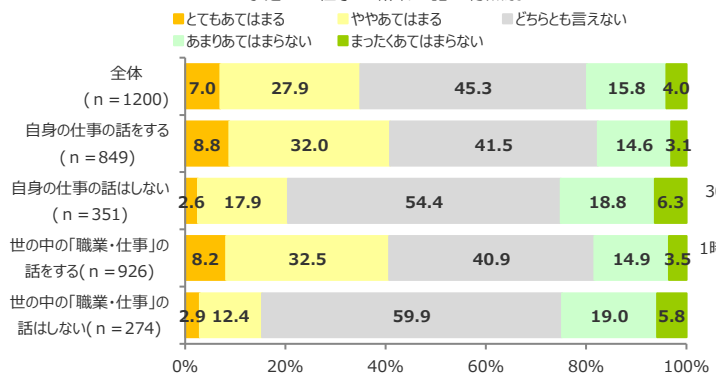
家庭での仕事・職業の話の有無別でみると、親自身や世の中の話にかかわらず仕事の“話をする”場合は、“話はしない”場合よりも「あてはまる・計」が大幅に高くなっている（図10.18）。

労働日の会話時間別にみると、会話時間が長くなるほど「あてはまる・計」の回答割合も高くなっていく（図10.19）。

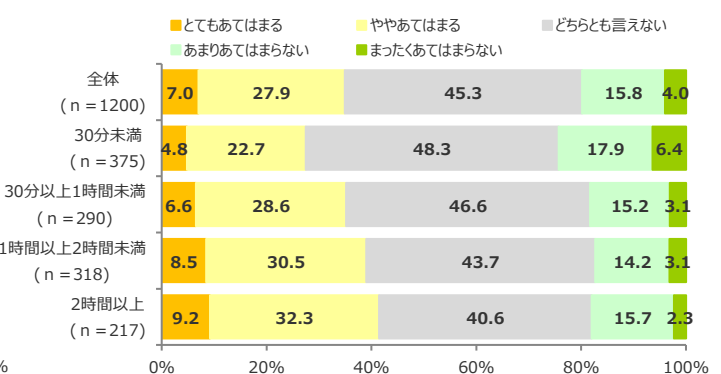
【図10.17】子供の思考・行動傾向⑥：子供性別



【図10.18】子供の思考・行動傾向⑥
：家庭での仕事・職業の話の有無別



【図10.19】子供の思考・行動傾向⑥：労働日の会話時間別



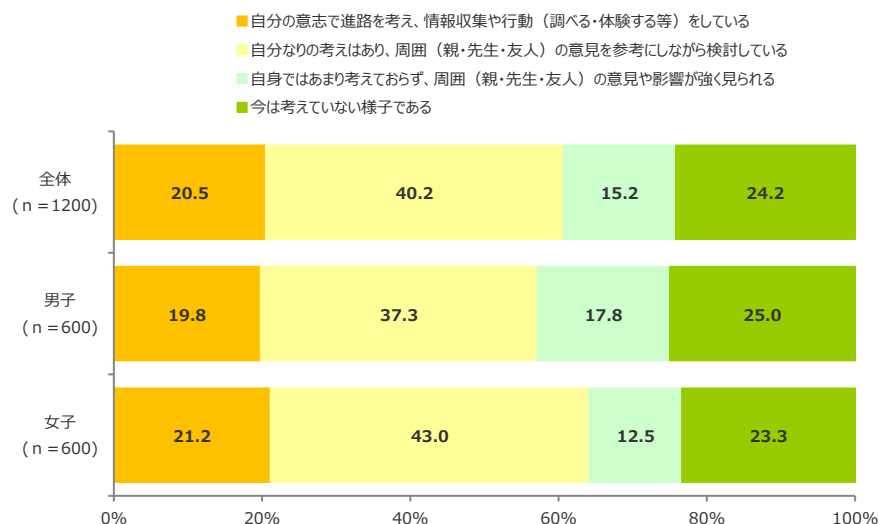
進路選択に対する子供自身の姿勢

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供は自身の中学校卒業後の進路選択（高校・大学等）についてどのような様子かを聞いた。結果は、「自分の意志で進路を考え、情報収集や行動（調べる・体験する等）をしている」20.5%、「自分なりの考えはあり、周囲（親・先生・友人）の意見を参考にしながら検討している」40.2%、「自身ではあまり考えておらず、周囲（親・先生・友人）の意見や影響が強く見られる」15.2%、「今は考えていない様子である」24.2%となった。

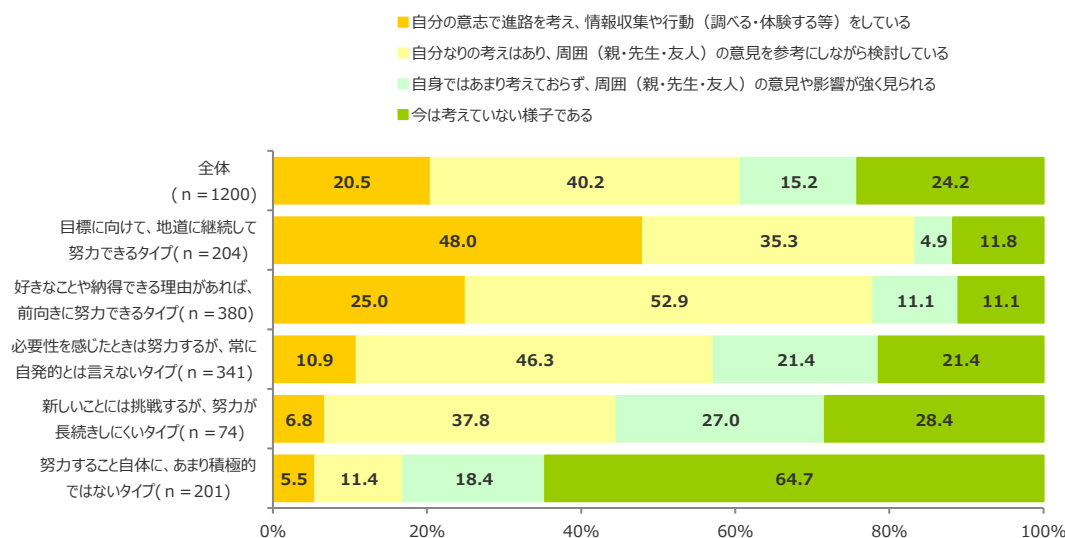
子供の性別でみると、女子の方が「自分の意志で進路を考え、情報収集や行動（調べる・体験する等）をしている」や「自分なりの考えはあり、周囲（親・先生・友人）の意見を参考にしながら検討している」の回答割合が高く、自身で主導権を持って進路選択をしようとしている傾向がある（図11.1）。

「9 子供の努力タイプ」でみると、「目標に向けて、地道に継続して努力できるタイプ」の子供では、「自分の意志で進路を考え、情報収集や行動（調べる・体験する等）をしている」が突出して高く48.0%に上った。多くの場面で努力を継続できる子供ほど、自身の進路選択について主体性をもって具体的行動に移っている様子がうかがえる（図11.2）。

【図11.1】進路選択に対する子供自身の姿勢



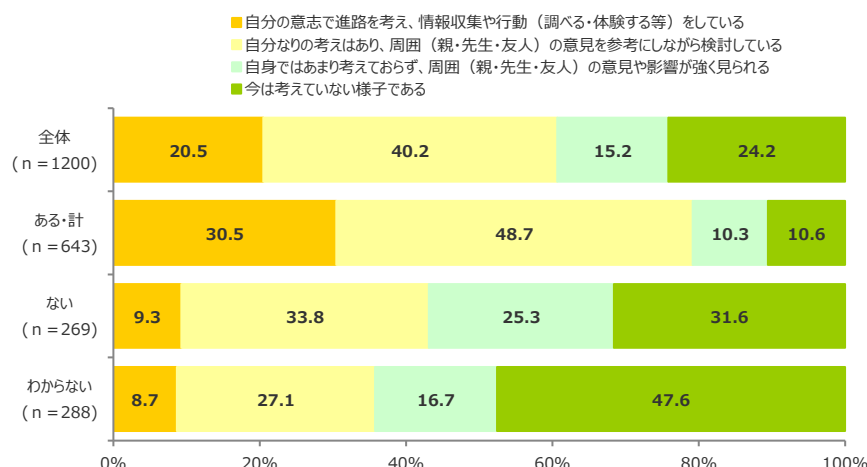
【図11.2】進路選択に対する子供自身の姿勢：子供の努力タイプ別



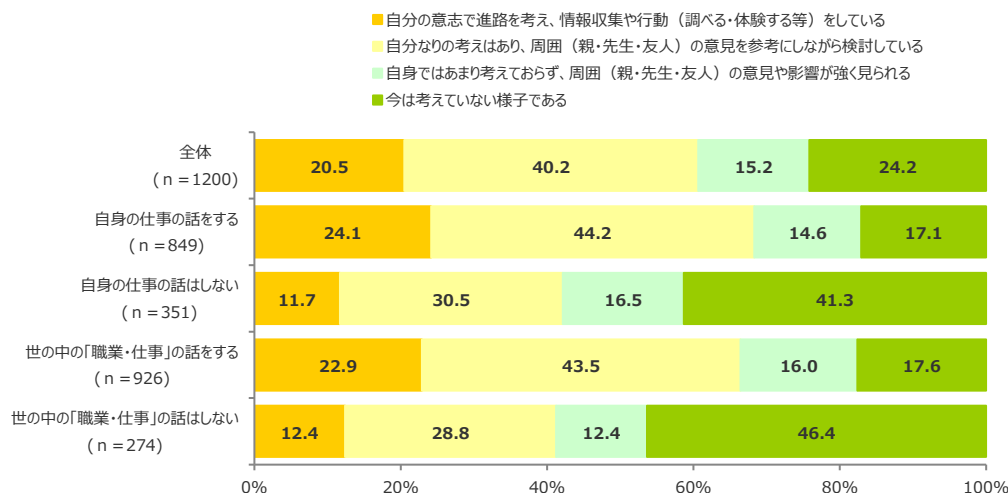
「15 子供に『将来なりたい職業』はあるか」についてみると、将来なりたい職業が「ある・計」の子供は、「自分の意志で進路を考え、情報収集や行動（調べる・体験する等）をしている」が30.5%、「自分なりの考えはあり、周囲（親・先生・友人）の意見を参考にしながら検討している」は48.7%となっている。将来について具体的なビジョンがあることで、進路選択も主体的に取り組めているのかもしれない（図11.3）。

家庭での仕事・職業の話の有無別にみると、“話をする”家庭の場合では、“話はしない”家庭に比べて「自分の意志で進路を考え、情報収集や行動（調べる・体験する等）をしている」「自分なりの考えはあり、周囲（親・先生・友人）の意見を参考にしながら検討している」の回答割合が高くなっていた。家庭で仕事の話に触れることで、進路選択についても知識や興味を持ちやすくなっているのかもしれない（図11.4）。

【図11.3】進路選択に対する子供自身の姿勢：将来なりたい職業の有無別



【図11.4】進路選択に対する子供自身の姿勢：家庭での仕事・職業の話の有無別



子供の進路選択に影響するもの

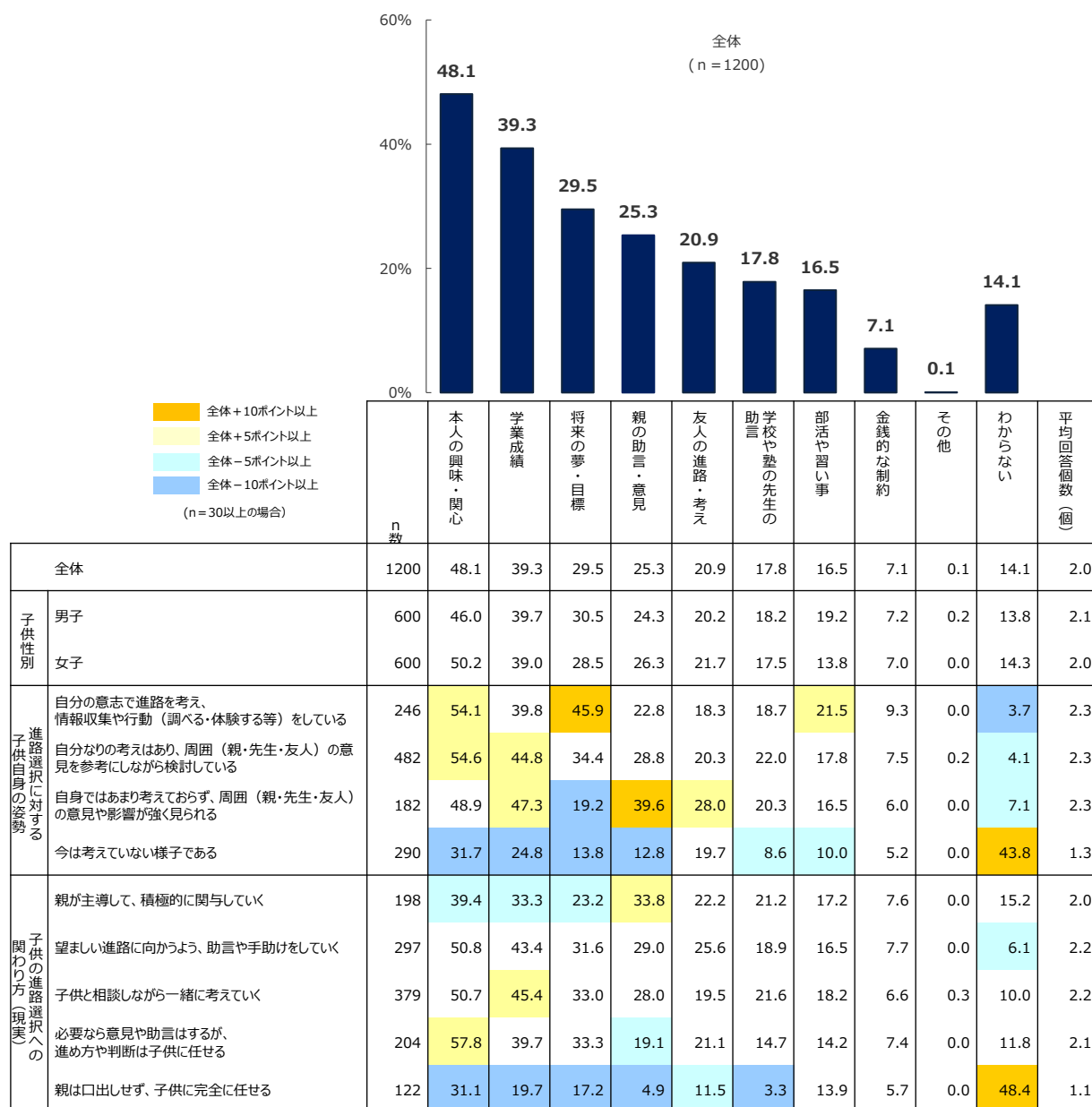
中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供の中学校卒業後の進路選択に特に影響している（影響しそう）なものを3つまで聞いた。

最も多かったのは「本人の興味・関心」で48.1%だった。次いで「学業成績」39.3%、「将来の夢・目標」29.5%、「親の助言・意見」25.3%、「友人の進路・考え」20.9%となっている。

「11 進路選択に対する子供自身の姿勢」でみると、主体的に行動できている子供では、特に「本人の興味・関心」や「将来の夢・目標」などの回答割合が高く、子供自身の考えが進路選択の軸になっていることがうかがえる。一方で、「自身ではあまり考えておらず、周囲（親・先生・友人）の意見や影響が強く見られる」子供では、進路選択においても「親の助言・意見」や「友人の進路・考え」に影響されていると考える割合が高くなっていた。

「8 子供の将来選択への関わり方」における「現実の姿勢」との関係を見ると、「子供と相談しながら一緒に考えていく」「必要なら意見や助言はするが、進め方や判断は子供に任せる」など、伴走もしくは見守りスタンスの家庭の場合には、「本人の興味・関心」や「将来の夢・目標」などの回答割合が高くなっており、子供自身の考えが実際に尊重されている印象を受ける（図12）。

【図12】子供の進路選択に影響するもの（複数回答）



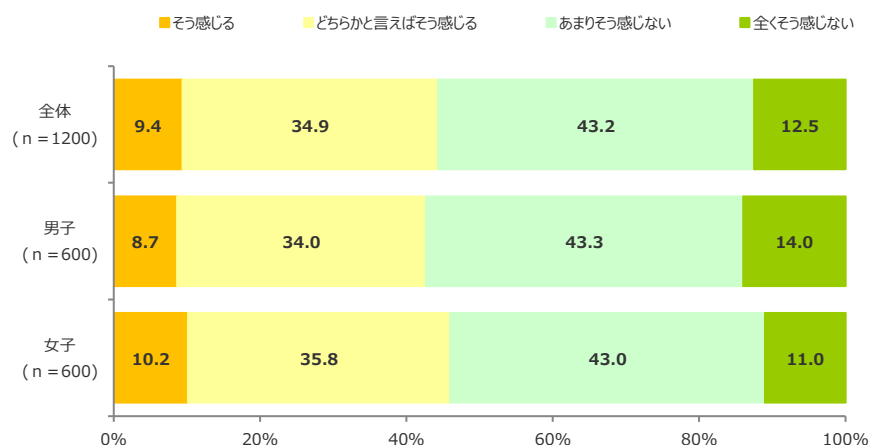
子供の勉強への取り組み姿勢

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供の勉強への取り組み姿勢について聞いた。
まず、子供の生活を見ていて「何のために様々な科目の勉強をするのか」を理解しているように感じるかを聞くと、「そう感じる」9.4%、「どちらかと言えばそう感じる」34.9%、「あまりそう感じない」43.2%、「全くそう感じない」12.5%となった。

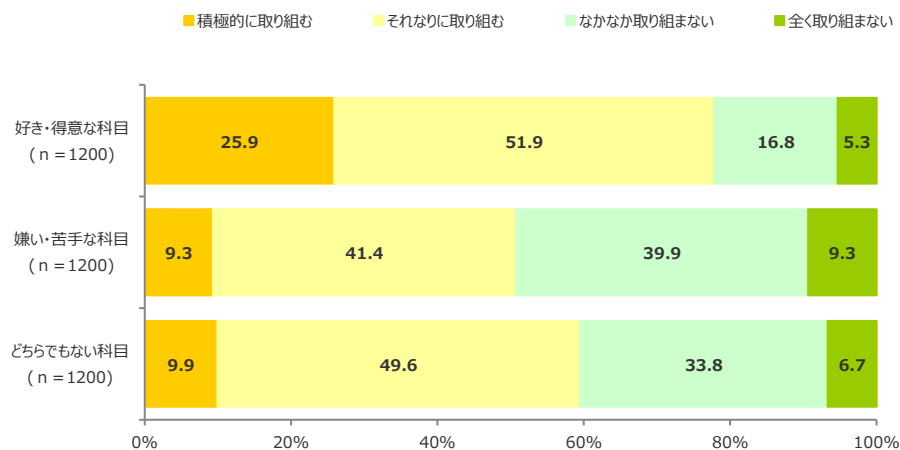
子供の性別でみると、女子の方が「そう感じる」「どちらかと言えばそう感じる」の割合がやや高い（図13.1）。

さらに、「好き・得意な科目」「嫌い・苦手な科目」「どちらでもない科目」それぞれの取り組み姿勢を聞いた。「好き・得意な科目」については、「積極的に取り組む」が25.9%、「それなりに取り組む」51.9%となり、ある程度積極的な姿勢がうかがえる。一方、「嫌い・苦手な科目」については、「積極的に取り組む」は9.3%に減少し、その分「なかなか取り組まない」が39.9%に伸びていた（図13.2）。

【図13.1】子供の生活を見ていて、「何のために様々な科目の勉強をするのか」を理解しているように感じるか



【図13.2】子供の勉強への取り組み姿勢



①好き・得意な科目

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供の「好き・得意な科目」に対する取り組み姿勢を聞いた。

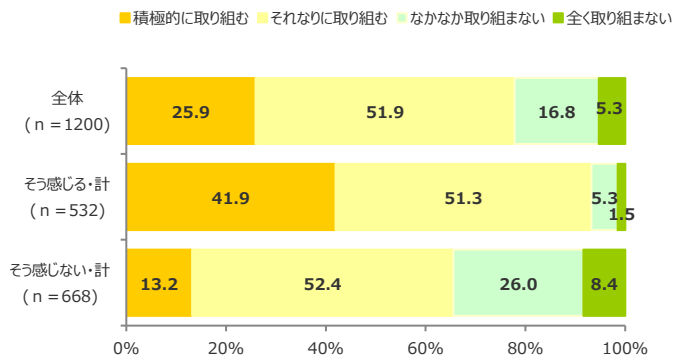
子供の性別でみると、女子の方が「積極的に取り組む」「それなりに取り組む」の割合がやや高い(図13.3)。

「子供は『何のために様々な科目の勉強をするのか』を理解しているように感じるか」との関係をみると、「そう感じる・計」では、「好き・得意な科目」に「積極的に取り組む」「それなりに取り組む」子供が合わせて9割超に上り、子供の取り組み姿勢からきちんと勉強の目的を理解していると感じているようだ(図13.4)。

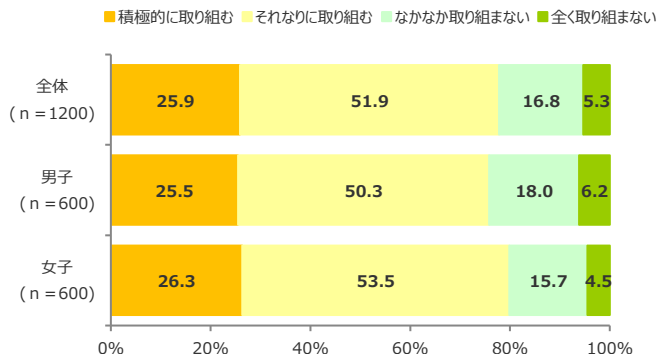
「11 進路選択に対する子供自身の姿勢」との関係をみると、自身の進路に対して主体性をもって行動・検討できている子供ほど「好き・得意な科目」に対して「積極的に取り組む」割合が高くなっていた(図13.5)。

【図13.4】子供の勉強への取り組み姿勢①

：子供は「何のために様々な科目の勉強をするのか」を理解しているように感じるか別

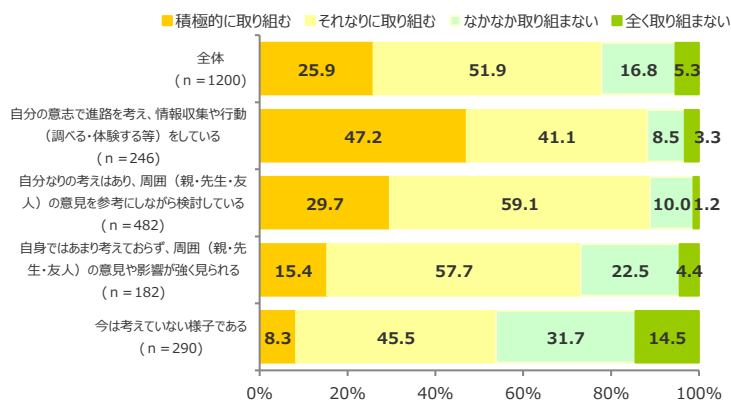


【図13.3】子供の勉強への取り組み姿勢①：子供性別



【図13.5】子供の勉強への取り組み姿勢①

：進路選択に対する子供自身の姿勢別



②嫌い・苦手な科目

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供の「嫌い・苦手な科目」に対する取り組み姿勢を聞いた。

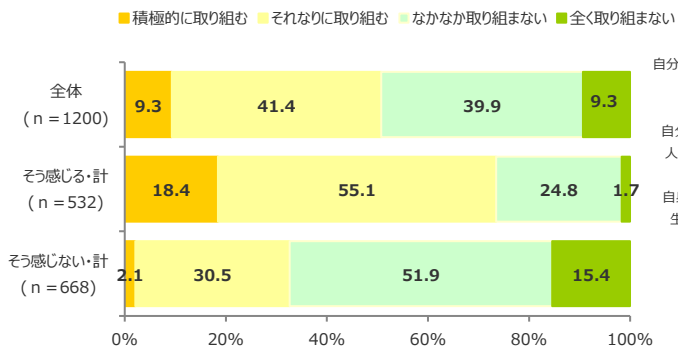
子供の性別でみると、女子の方が「積極的に取り組む」「それなりに取り組む」の割合が高い(図13.6)。

「子供は『何のために様々な科目の勉強をするのか』を理解しているように感じるか」との関係をみると、「そう感じる・計」では、「積極的に取り組む」「それなりに取り組む」が合わせて73.5%に上り、「そう感じない・計」と40.9ポイントもの差が開いた。嫌い・苦手な科目にもきちんと取り組んでいるからこそ、より勉強の目的を理解していると感じているようだ(図13.7)。

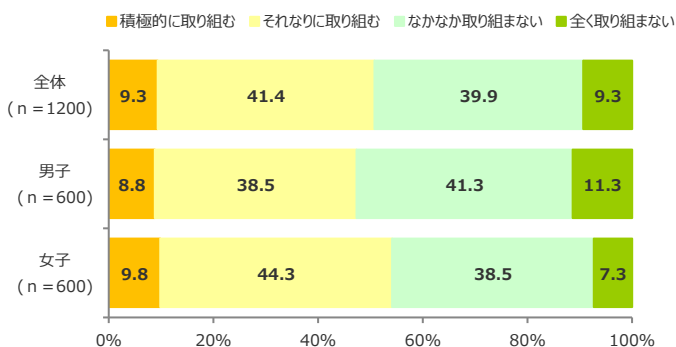
「11 進路選択に対する子供自身の姿勢」との関係をみると、自身の進路に対して主体性をもって行動・検討できている子供では「嫌い・苦手な科目」に対してもきちんと取り組んでいる割合が高くなっていた(図13.8)。

【図13.7】子供の勉強への取り組み姿勢②

：子供は「何のために様々な科目の勉強をするのか」を理解しているように感じるか別

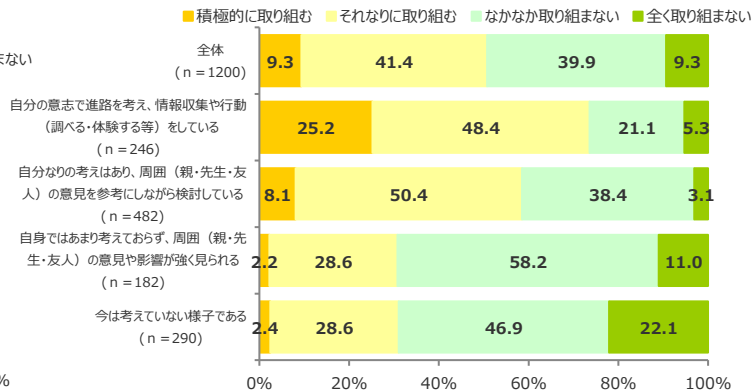


【図13.6】子供の勉強への取り組み姿勢②：子供性別



【図13.8】子供の勉強への取り組み姿勢②

：進路選択に対する子供自身の姿勢別



③どちらでもない科目

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供の「どちらでもない科目」に対する取り組み姿勢を聞いた。

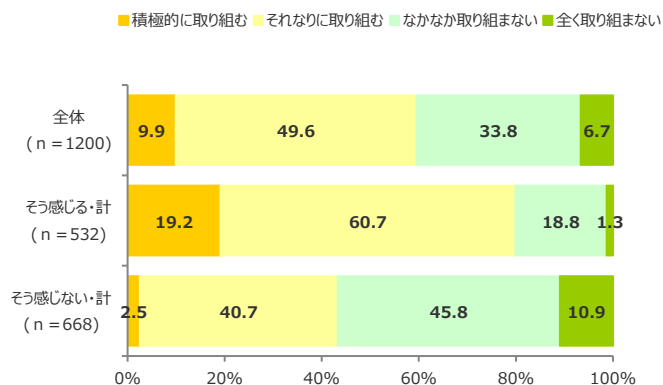
子供の性別でみると、女子の方が比較的積極的に取り組んでいる様子がうかがえる(図13.9)。

「子供は『何のために様々な科目の勉強をするのか』を理解しているように感じるか」との関係をみると、「そう感じる・計」では、「積極的に取り組む」「それなりに取り組む」が合わせて79.9%に上り、「そう感じない・計」の約2倍となった。どの科目もきちんと取り組んでいるからこそ、勉強の目的を理解しているとより感じているのかもしれない(図13.10)。

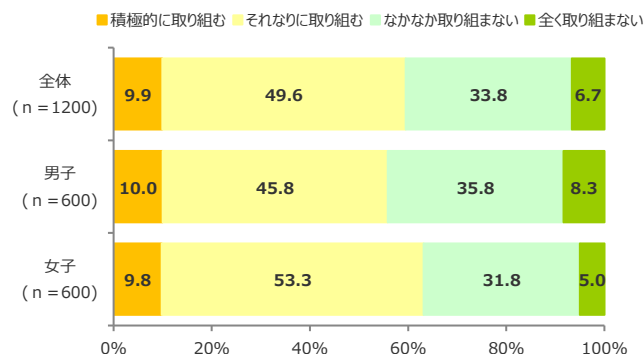
「11 進路選択に対する子供自身の姿勢」との関係をみると、進路に対して主体的に行動・検討できている子供ほど「どちらとも言えない科目」にもきちんと取り組んでいる割合が高くなっていた(図13.11)。

【図13.10】子供の勉強への取り組み姿勢③

：子供は「何のために様々な科目の勉強をするのか」を理解しているように感じるか別

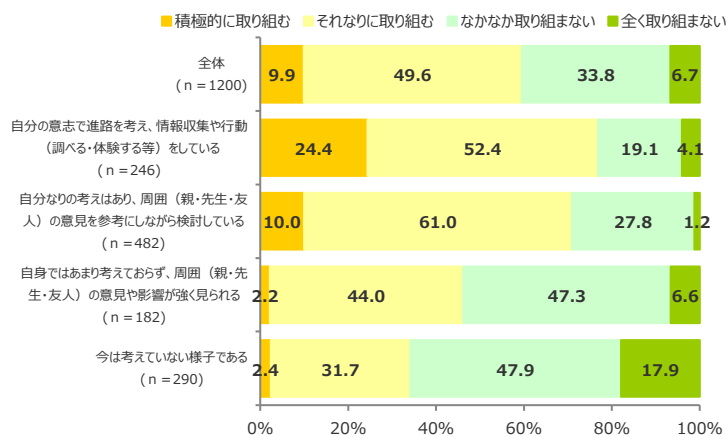


【図13.9】子供の勉強への取り組み姿勢③：子供性別



【図13.11】子供の勉強への取り組み姿勢③

：進路選択に対する子供自身の姿勢別



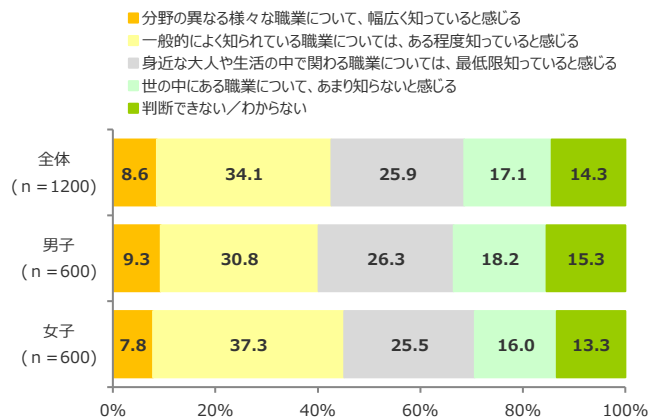
中学校1-3年生の子供がいる男女に、日頃の会話や行動から子供は世の中にある様々な職業をどの程度知っていると感じるかを聞いた。「分野の異なる様々な職業について、幅広く知っていると感じる」8.6%、「一般的によく知られている職業については、ある程度知っていると感じる」34.1%、「身近な大人や生活の中で関わる職業については、最低限知っていると感じる」25.9%、「世の中にある職業について、あまり知らないと感じる」17.1%、「判断できない／わからない」14.3%となった。

子供の性別でみると、女子では「分野の異なる様々な職業について、幅広く知っていると感じる」と「一般的によく知られている職業については、ある程度知っていると感じる」の合計が45.1%となり、男子よりも若干高くなった（図14.1）。

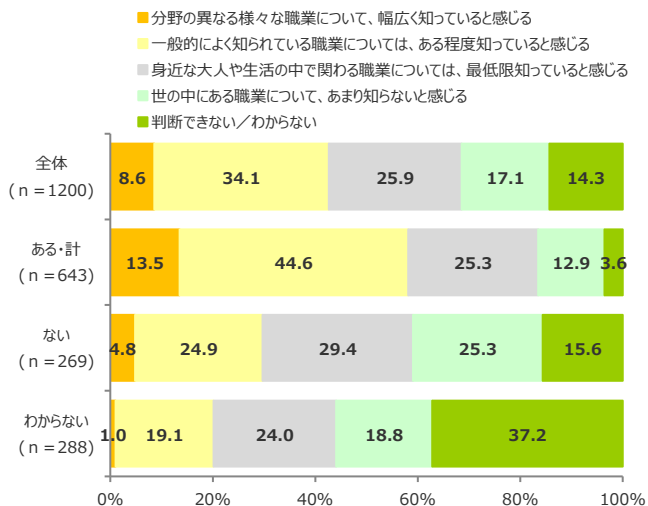
「15 子供に『将来なりたい職業』はあるか」との関係を見ると、将来なりたい職業が「ある・計」では、「分野の異なる様々な職業について、幅広く知っていると感じる」が13.5%、「一般的によく知られている職業については、ある程度知っていると感じる」が44.6%となり、将来なりたい職業が「ない」「わからない」の回答者よりも高い。将来なりたい職業がある程度定まっているため、関連する職業についての興味を持っているのかもしれない（図14.2）。

家庭での仕事・職業の話の有無別でみると、親自身や世の中の話にかかわらず仕事の“話をする”家庭においては、世の中の職業に対する認知度が高く、仕事の“話はしない”家庭との差は2倍となっている（図14.3）。

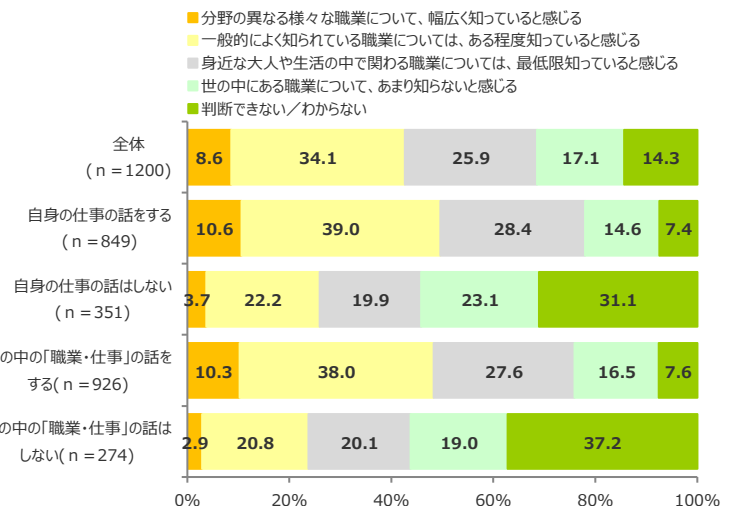
【図14.1】子供の職業知識：子供性別



【図14.2】子供の職業知識：将来なりたい職業の有無別



【図14.3】子供の職業知識：家庭での仕事・職業の話の有無別



子供に「将来になりたい職業」はあるか

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供に将来になりたい職業があるかを聞いた。結果は、「特定の職業がある」15.2%、「特定ではないが、漠然としたものならある」38.4%、「ない」22.4%、「わからない」24.0%となった。「特定の職業がある」と「特定ではないが、漠然としたものならある」を合わせた、将来になりたい職業が「ある・計（以下同）」は53.6%だった（図15.1）。

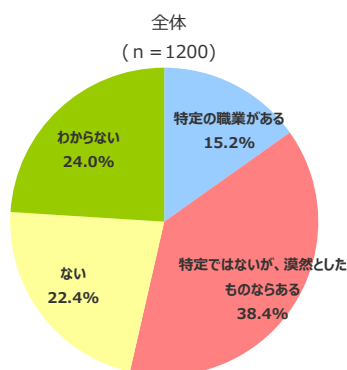
子供の性別でみると、「ある・計」の割合は、男女で大きな差はなかった（図15.2）。

「20 子供は親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見た。父親、母親ともに、働く姿を「見たことがある」場合には「ある・計」が6割超となっており、「見たことはない」場合を16ポイント以上上回っていた（図15.3、図15.4）。

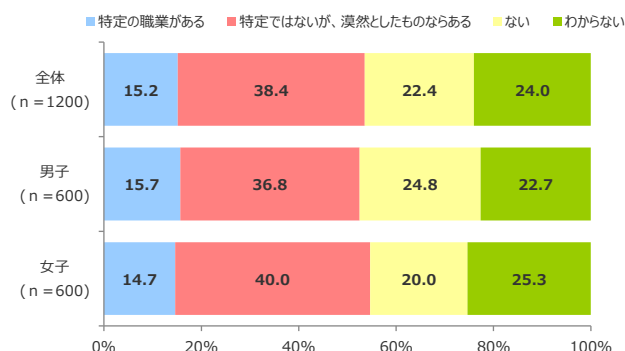
仕事の充実度との関係を見ると、親の仕事が「充実している・計」の家庭では、子供に将来になりたい職業が「ある・計」の割合が58.6%に上り、「充実していない・計」家庭を18.5ポイント上回っていた（図15.5）。

家庭での仕事・職業の話の有無別でみると、親自身や世の中の話にかかわらず仕事の“話をする”家庭では、子供の将来になりたい職業が「ある・計」の割合は6割超となり、“話はしない”家庭の1.5～2倍に上った（図15.6）。

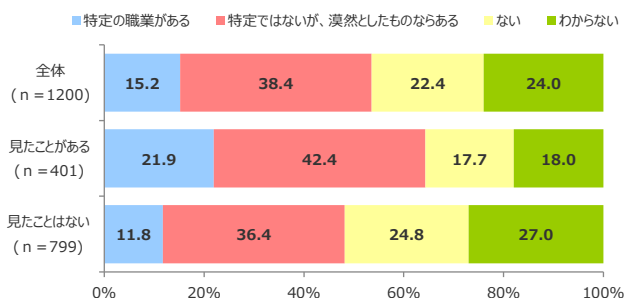
【図15.1】将来になりたい職業はあるか



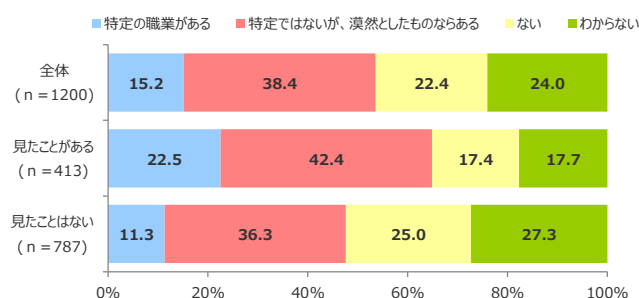
【図15.2】将来になりたい職業はあるか：子供性別



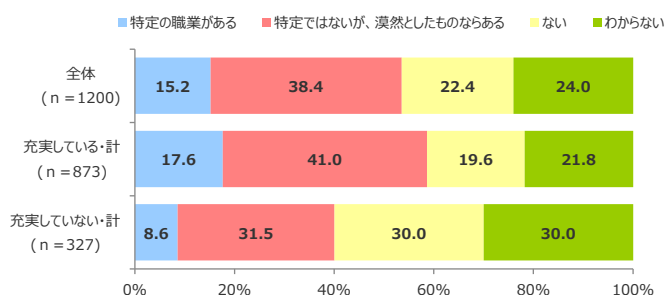
【図15.3】将来になりたい職業はあるか：父親の働く姿を見たことがあるか別



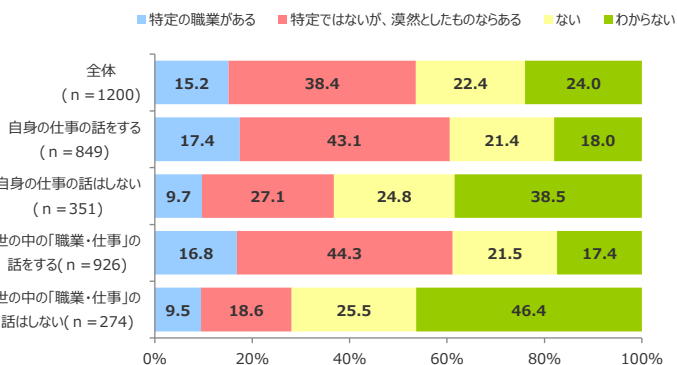
【図15.4】将来になりたい職業はあるか：母親の働く姿を見たことがあるか別



【図15.5】将来になりたい職業はあるか：仕事の充実度別



【図15.6】将来になりたい職業はあるか：家庭での仕事・職業の話の有無別



「将来になりたい職業」について 親子対話時の対応

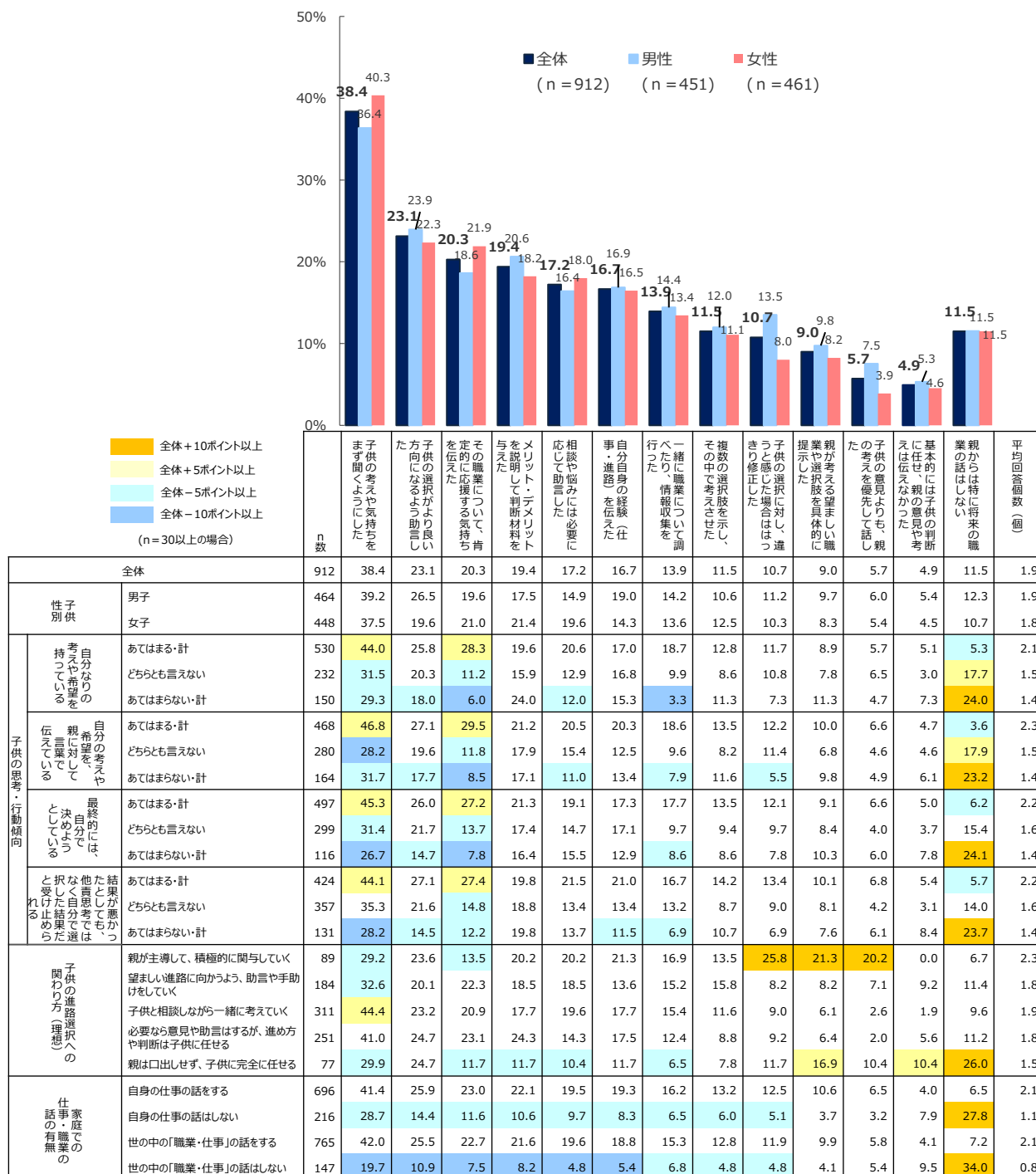
「15 子供に『将来になりたい職業』はあるか」において、「わからない」以外を選択した回答者に、子供の将来の夢やなりたい職業について一番最近話をした際、どのような対応をしたか聞いた。

最も多かったのは「子供の考えや気持ちをまず聞くようにした」で38.4%となった。次いで「子供の選択がより良い方向になるよう助言した」23.1%となっている。

「10 子供の思考・行動傾向」でみると、全項目において、「あてはまる・計」と回答した者の場合は、そうでない者に比べて平均回答個数が多い。また、全体で1位だった「子供の考えや気持ちをまず聞くようにした」が最多だったのは変わらないが、全体で3位だった「その職業について、肯定的に応援する気持ちを伝えた」が「あてはまる・計」の回答者では2位に上がっており、子供への寄り添いととも、子供の意見を肯定し受容する姿勢が強いことがうかがえる。

家庭での仕事・職業の話の有無別でみると、親自身や世の中の話にかかわらず仕事の“話はしない”家庭では、“話をする”家庭よりも平均回答個数が少なく、子供の話に対して反応が薄いことがうかがえた（図16）。

【図16】「将来になりたい職業」について親子対話時の対応（複数回答）



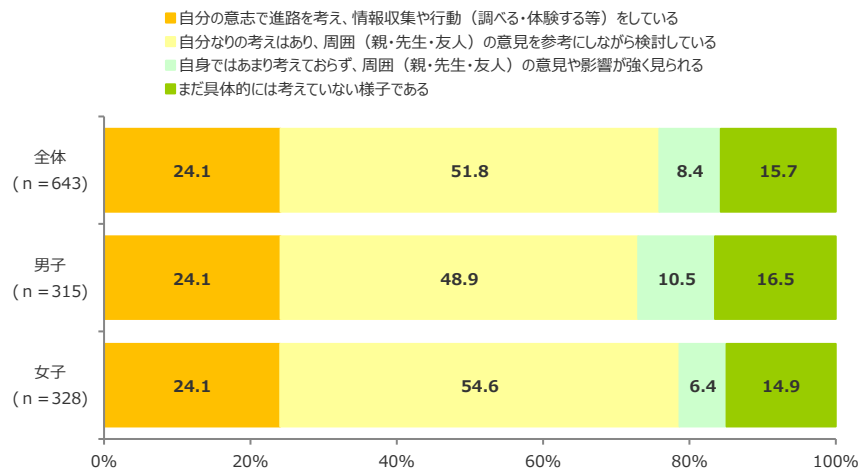
職業選択に対する子供自身の姿勢

「15 子供に『将来なりたい職業』はあるか」において、「特定の職業がある」もしくは「特定ではないが、漠然としたものならある」を選択した回答者に、子供は将来なりたい職業に就くために、どのような行動をしているかを聞いた。結果は、「自分の意志で進路を考え、情報収集や行動（調べる・体験する等）をしている」24.1%、「自分なりの考えはあり、周囲（親・先生・友人）の意見を参考にしながら検討している」51.8%、「自身ではあまり考えておらず、周囲（親・先生・友人）の意見や影響が強く見られる」8.4%、「まだ具体的には考えていない様子である」15.7%となった。

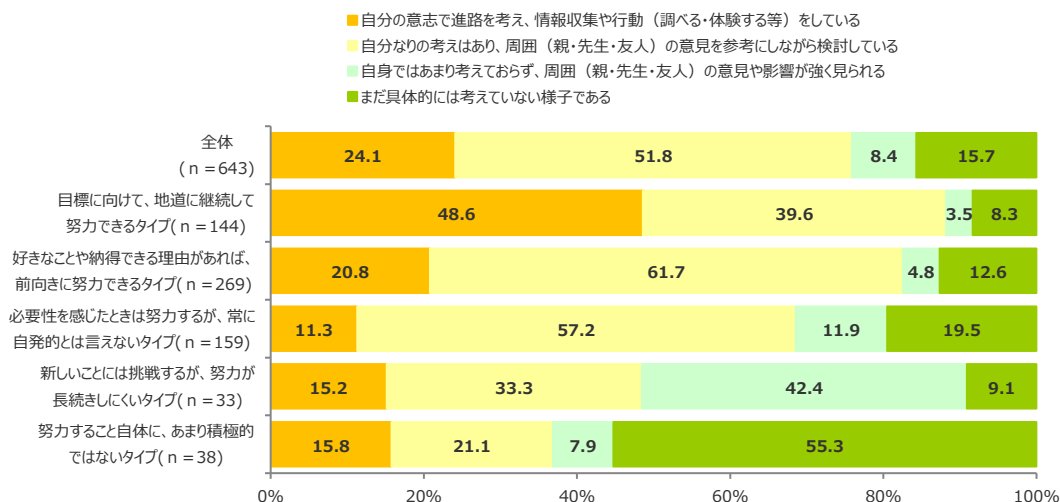
子供の性別でみると、女子は男子に比べて「自分なりの考えはあり、周囲（親・先生・友人）の意見を参考にしながら検討している」の回答割合がやや高い（図17.1）。

「9 子供の努力タイプ」でみると、「目標に向けて、地道に継続して努力できるタイプ」の子供では、「自分の意志で進路を考え、情報収集や行動（調べる・体験する等）をしている」が突出して高く48.6%に上った。「自分なりの考えはあり、周囲（親・先生・友人）の意見を参考にしながら検討している」も含めてみると、多くの場面で努力を継続できる子供ほど、自身の職業選択についても主体性を持って情報収集や検討をしている様子が見える（図17.2）。

【図17.1】職業選択に対する子供自身の姿勢

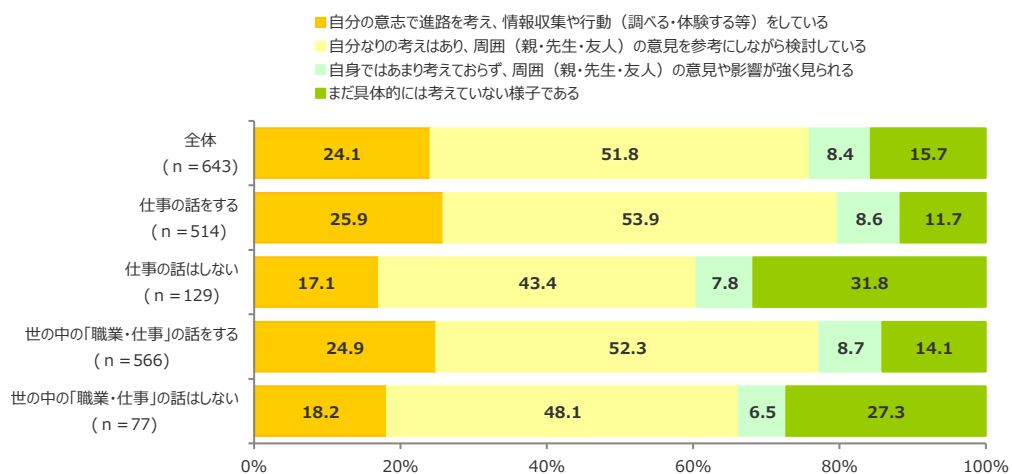


【図17.2】職業選択に対する子供自身の姿勢：子供の努力タイプ別



家庭での仕事・職業の話の有無別にみると、親自身や世の中の話にかかわらず仕事の“話をする”家庭の場合では、“話はしない”家庭に比べて「自分の意志で進路を考え、情報収集や行動（調べる・体験する等）をしている」「自分なりの考えはあり、周囲（親・先生・友人）の意見を参考にしながら検討している」の回答割合が高くなっていた。家庭で仕事の話に触れることで、自身の将来の職業や働き方についても知識や興味を持ちやすくなり、行動につながっているのかもしれない（図17.3）。

【図17.3】職業選択に対する子供自身の姿勢：家庭での仕事・職業の話の有無別



子供の進路・職業選択に 親の職業は影響するか

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供の進路・職業選択に親の職業は影響すると思うかを聞くと、「とても影響すると思う」7.6%、「まあ影響すると思う」25.8%、「あまり影響しないと思う」44.5%、「全く影響しないと思う」22.2%となった。

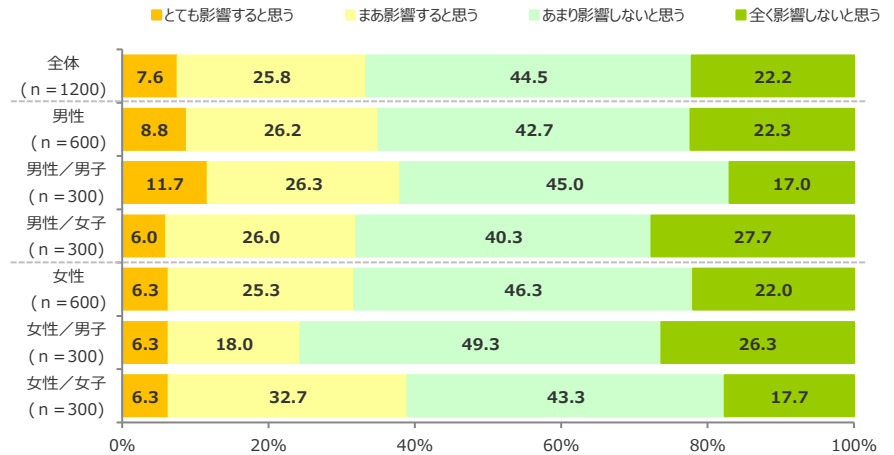
大人性別と子供性別の関係でみると、「とても影響すると思う」「まあ影響すると思う」の合計値（以下「影響すると思う・計」）は、回答者と子供が同性の場合に高くなっており、自身が子供のロールモデルになり得るとより自覚している様子が見え（図18.1）。

仕事の充実度別でみると、「充実している・計」では「影響すると思う・計」が38.7%となり、「充実していない・計」の約2倍に上った（図18.2）。

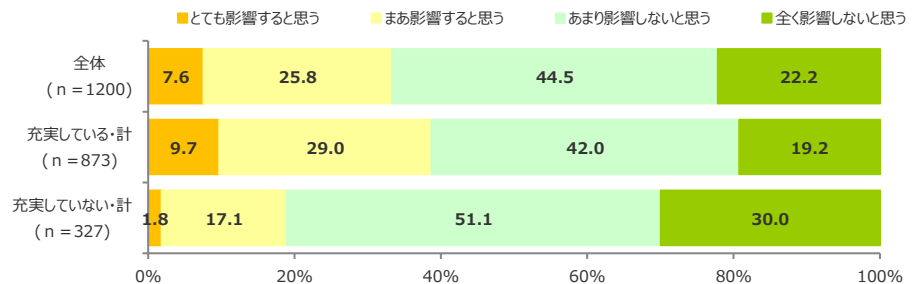
家庭での仕事・職業の話の有無別にみると、自身や世の中の仕事の“話をする”場合においては「影響すると思う・計」が約4割と、“話さない”場合に比べて高くなっていった（図18.3）。

「8 子供の将来選択への関わり方（理想の姿勢）」との関係を見ると、「親が主導して、積極的に関与していく」とした回答者は、自身の職業が「とても影響すると思う」という回答が高かった。子供の進路や将来選択も親の役割として強く意識していることから、自分の仕事の子供に与える影響も大きいと考えているのかもしれない（図18.4）。

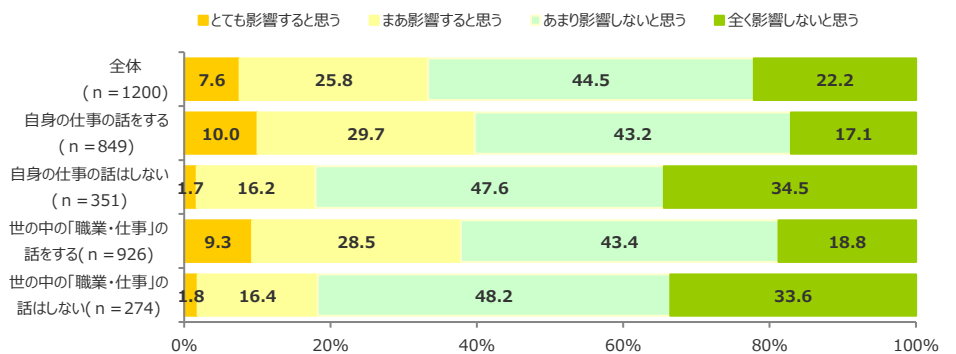
【図18.1】子供の進路・職業選択に親の職業は影響するか：大人性別×子供性別



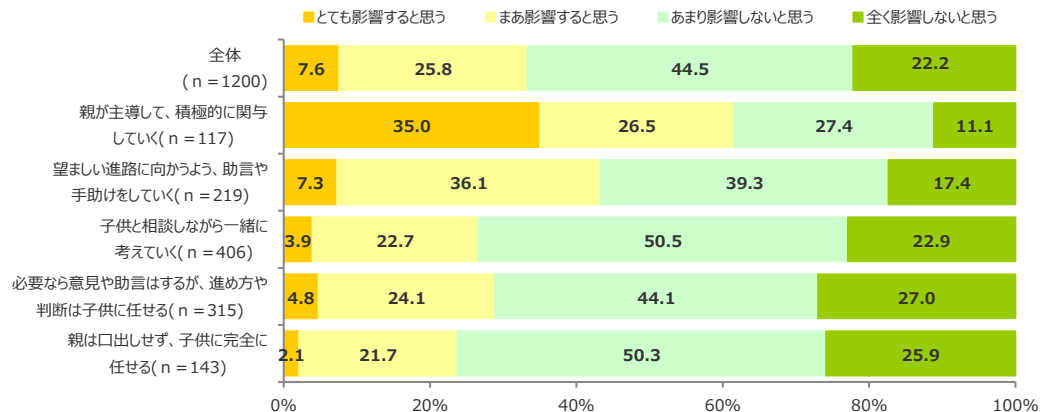
【図18.2】子供の進路・職業選択に親の職業は影響するか：仕事の充実度別



【図18.3】子供の進路・職業選択に親の職業は影響するか：家庭での仕事・職業の話の有無別



【図18.4】子供の進路・職業選択に親の職業は影響するか：子供の将来選択への関わり方（理想の姿勢）別



子供の進路・職業選択に 親の働き方は影響するか

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供の進路・職業選択に親の働き方は影響すると思うかを聞くと、「とても影響すると思う」6.4%、「まあ影響すると思う」27.8%、「あまり影響しないと思う」45.0%、「全く影響しないと思う」20.8%となった。

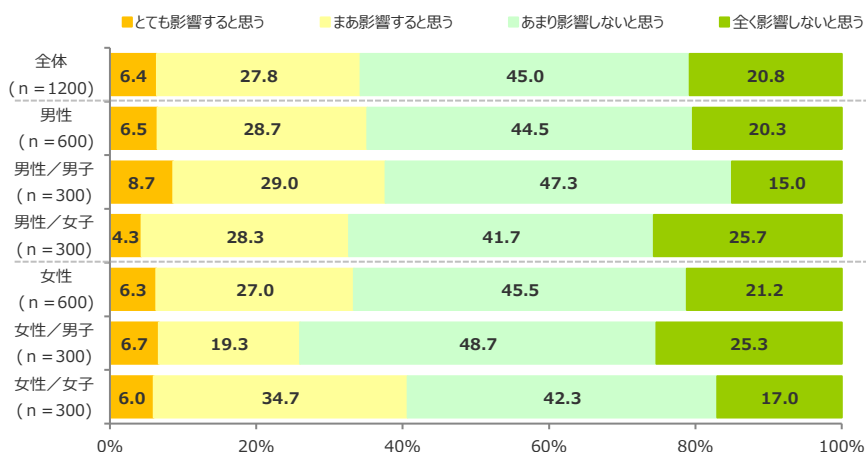
大人性別と子供性別の関係でみると、「影響すると思う・計」は、回答者と子供が同性の場合に高くなっていた。職業と同様に自身の働き方も子供のロールモデルになり得ると感じやすいようだ(図19.1)。

仕事の充実度別でみると、「充実している・計」では「影響すると思う・計」が39.7%となり、「充実していない・計」の約2倍に上った(図19.2)。

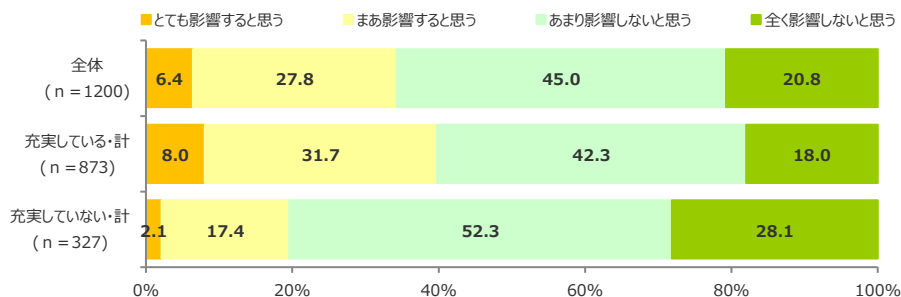
家庭での仕事・職業の話の有無別にみると、自身や世の中の仕事の“話をする”場合においては「影響すると思う・計」が約4割と、“話はしない”場合に比べて高くなっていた(図19.3)。

「8 子供の将来選択への関わり方(理想の姿勢)」との関係を見ると、「親が主導して、積極的に関与していく」とした回答者は、自身の職業と同様に働き方も「とても影響すると思う」の回答割合が突出して高くなっていた(図19.4)。

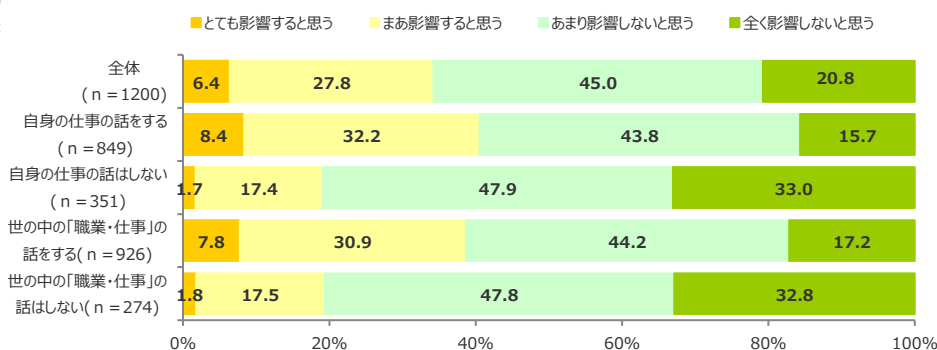
【図19.1】子供の進路・職業選択に親の働き方は影響するか：大人性別×子供性別



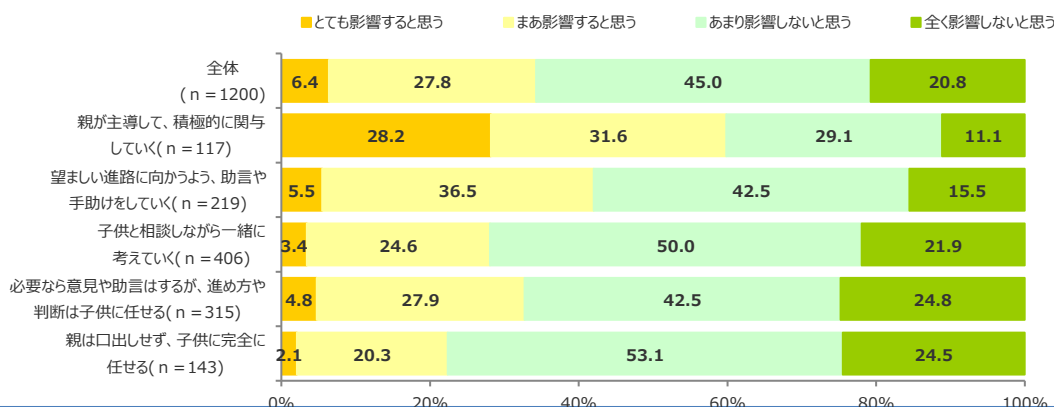
【図19.2】子供の進路・職業選択に親の働き方は影響するか：仕事の充実度別



【図19.3】子供の進路・職業選択に親の働き方は影響するか：家庭での仕事・職業の話の有無別



【図19.4】子供の進路・職業選択に親の働き方は影響するか：子供の将来選択への関わり方(理想の姿勢)別



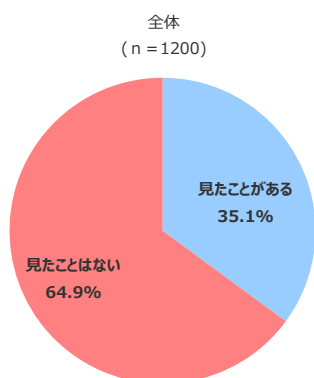
子供は親の働く姿を見たことがあるか

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供は回答者の働く姿を見たことがあるかを聞くと、「見たことがある」が35.1%「見たことはない」64.9%となった（図20.1）。

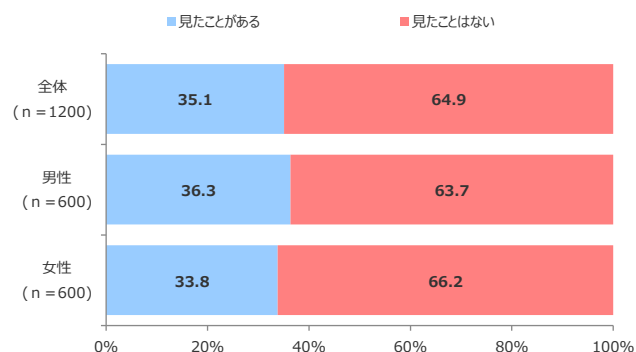
就労状況別にみると、男女ともに「正社員/自営業・個人事業主」の場合には、子供が自身の働く姿を「見たことがある」回答割合が高くなっていた（図20.3、図20.5）。

労働日の会話時間別にみると、男性の場合は子供との会話時間が長いほど、子供が自身の働く姿を「見たことがある」割合が高くなる傾向にある。一方、女性では労働日の会話時間による大きな傾向は見られなかった（図20.4、図20.6）。

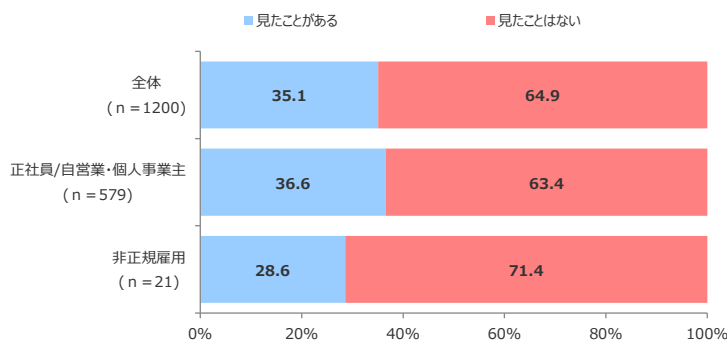
【図20.1】子供はあなたの働く姿を見たことがあるか



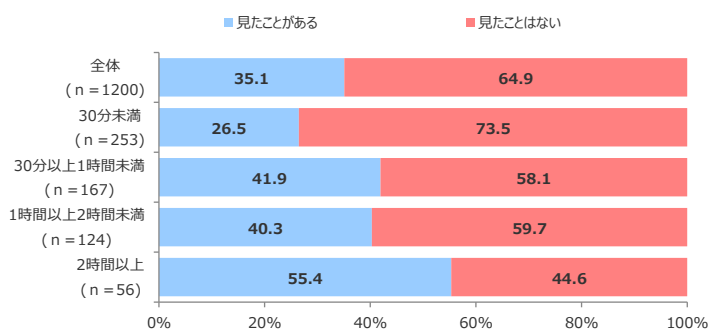
【図20.2】子供はあなたの働く姿を見たことがあるか：大人性別



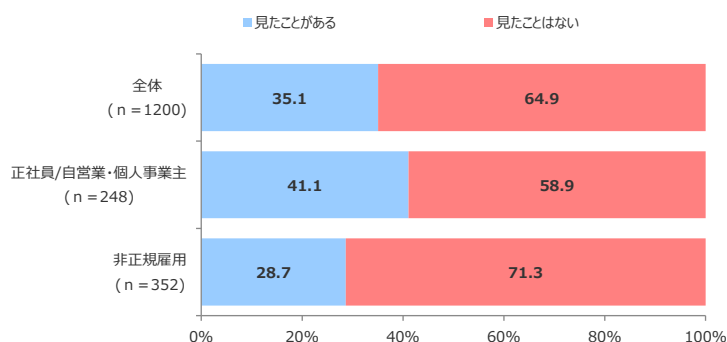
【図20.3】子供はあなたの働く姿を見たことがあるか：男性／就労状況別



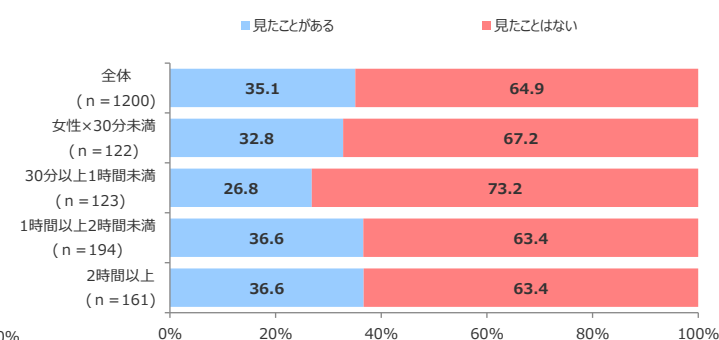
【図20.4】子供はあなたの働く姿を見たことがあるか：男性／労働日の会話時間別



【図20.5】子供はあなたの働く姿を見たことがあるか：女性／就労状況別



【図20.6】子供はあなたの働く姿を見たことがあるか：女性／労働日の会話時間別



子供は将来働くことを楽しみに思っているか

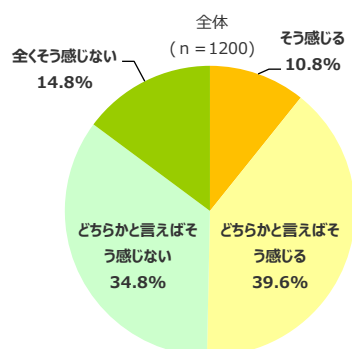
中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供は将来働くことを楽しみに思っていると感じるか聞いた。結果は、「そう感じる」10.8%、「どちらかと言えばそう感じる」39.6%、「どちらかと言えばそう感じない」34.8%、「全くそう感じない」14.8%となった。「そう感じる・計（「そう感じる」+「どちらかと言えばそう感じる」の計/以下同）」が50.4%となった（図21.1）。

子供の性別でみると、女子の方が「そう感じる・計」が高くなった（図21.2）。

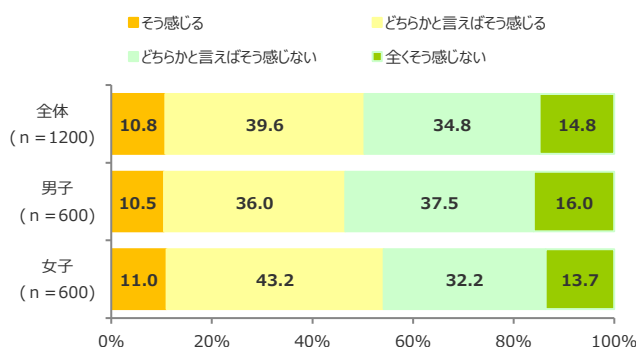
「15 子供に『将来なりたい職業』はあるか」との関係を見ると、将来なりたい職業が「ある・計」では、「そう感じる・計」が72.6%と大幅に高くなっており、将来の職業イメージがあることが未来への期待感につながっていることがうかがえる（図21.3）。

「20 子供は親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見た。父親、母親ともに、働く姿を「見たことがある」場合には、「見たことはない」場合に比べて「そう感じる・計」が大幅に高くなっていた。大人の働く姿を実際に見ることで自身の将来も身近に感じられ、働くことへのポジティブなイメージにつながっているのかもしれない（図21.4、図21.5）。

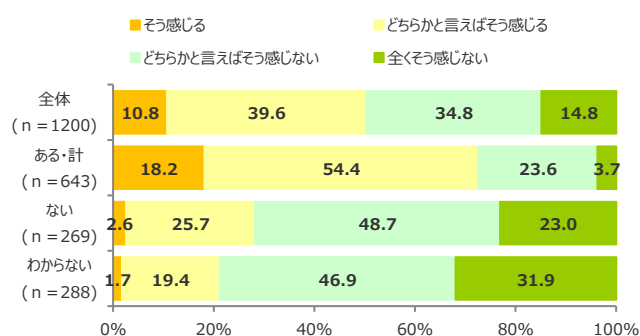
【図21.1】子供は将来働くことを楽しみに思っているか



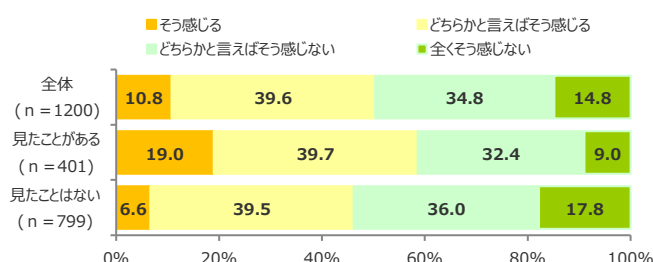
【図21.2】子供は将来働くことを楽しみに思っているか
：子供性別



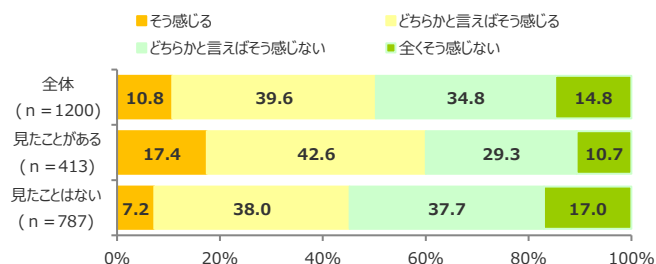
【図21.3】子供は将来働くことを楽しみに思っているか
：将来なりたい職業の有無別



【図21.4】子供は将来働くことを楽しみに思っているか
：父親の働く姿を見たことがあるか別



【図21.5】子供は将来働くことを楽しみに思っているか
：母親の働く姿を見たことがあるか別



子供に身に付けてほしい能力

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供が社会人になるまでに身に付けてほしい能力は何かを聞いた（5つまで回答）。選択肢には、経済産業省が提唱している「社会人基礎力の12の能力要素」を配置した。

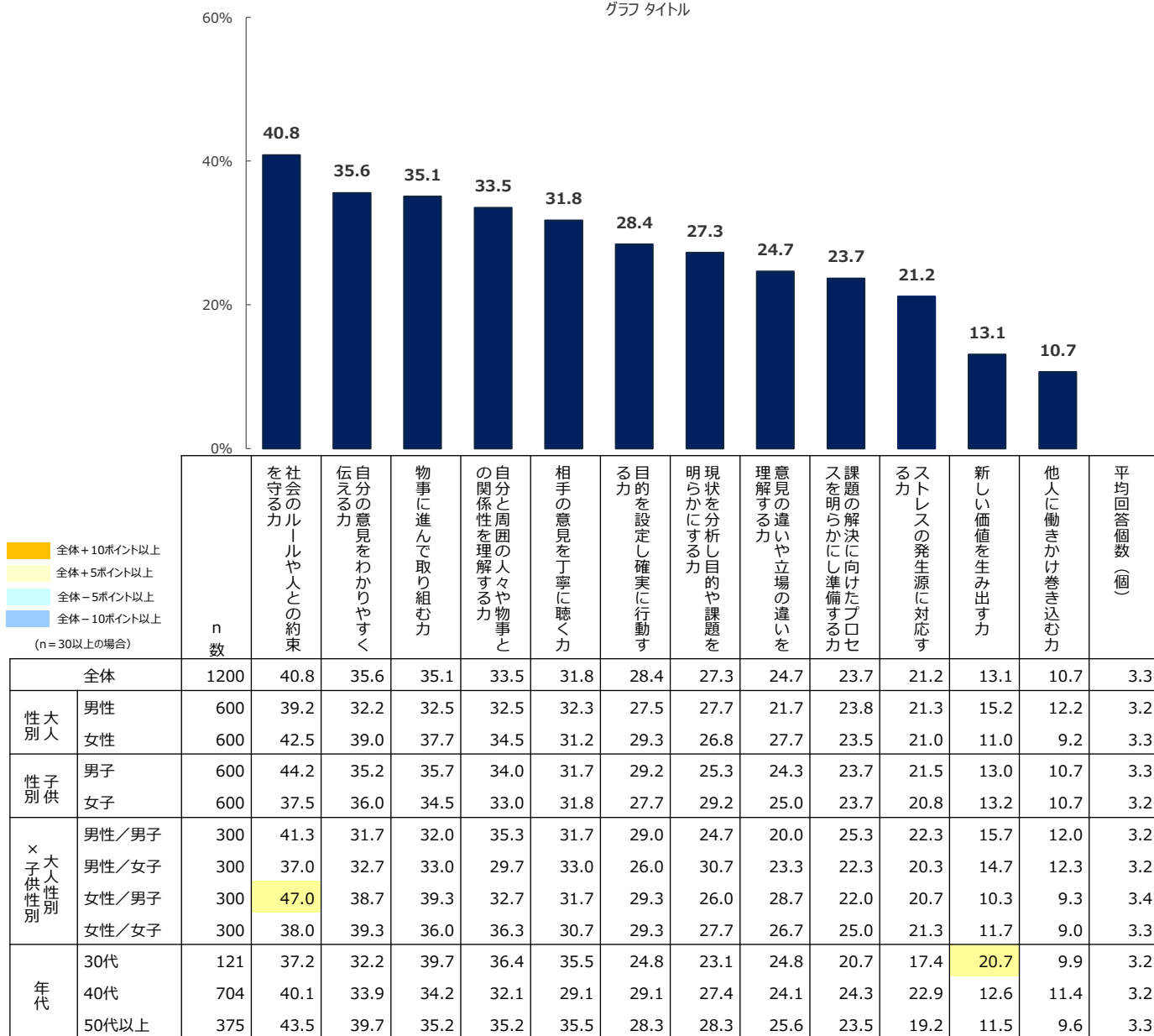
全体では、「社会のルールや人との約束を守る力」が最も多く40.8%、次いで「自分の意見をわかりやすく伝える力」35.6%、「物事に進んで取り組む力」35.1%、「自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力」33.5%、「相手の意見を丁寧に聴く力」31.8%と続いている。

子供の性別でみると、「社会のルールや人との約束を守る力」は男子、女子ともに最も多い。特に、母親が息子に対して思う場合では、47.0%に上る。また、母親が娘に対して身に付けてほしい能力の1位は「自分の意見をわかりやすく伝える力」となっており、親と子の性別によって求める能力も若干異なるようだ。

年代別でみると、30代では、「物事に進んで取り組む力」が39.7%で最も回答を集めた。また、「新しい価値を生み出す力」が20.7%と他の年代よりも高くなっているのも特徴である（図22）。

【図22】子供に身に付けてほしい能力（複数回答）

グラフタイトル

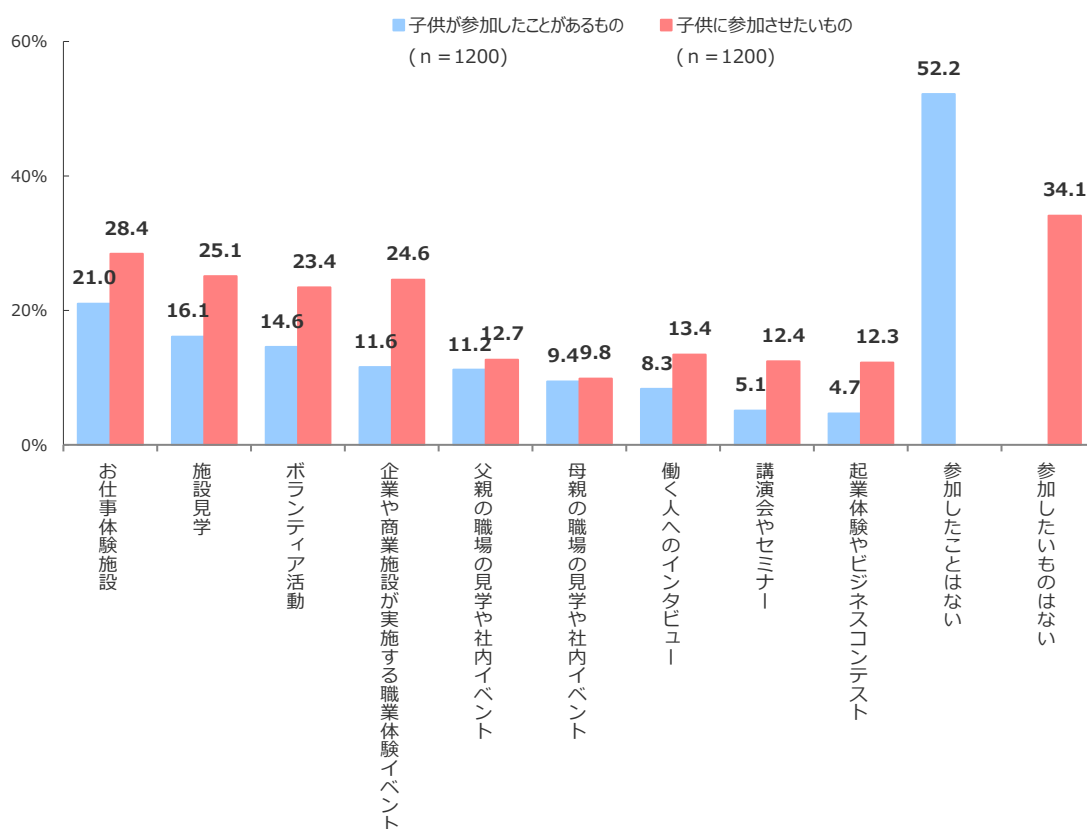


中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供は学校の授業以外で職業選択や働くことについて考えるようなプログラムに参加したことはあるか、また参加させたいものはあるかを聞いた。

「参加したことがあるもの」では、上位は「お仕事体験施設」21.0%、「施設見学」16.1%、「ボランティア活動」14.6%、「企業や商業施設が実施する職業体験イベント」11.6%、「父親の職場の見学や社内イベント」11.2%となった。

「参加させたいもの」では、上位は「お仕事体験施設」28.4%、「施設見学」25.1%、「企業や商業施設が実施する職業体験イベント」24.6%、「ボランティア活動」23.4%となった（図23）。

【図23】学校以外のキャリア教育機会（複数回答）



学校に望むキャリア教育機会

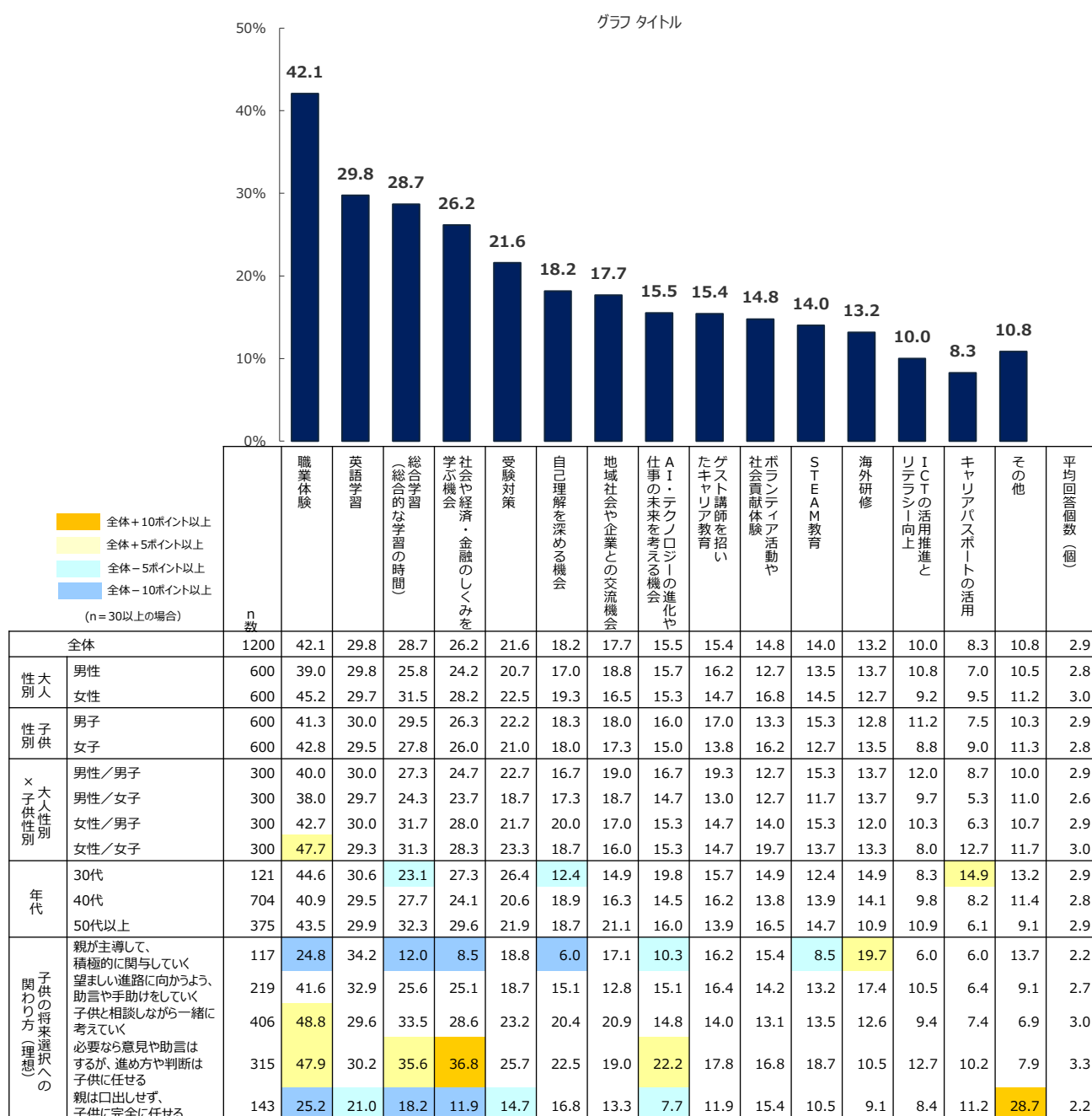
中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供の将来の進路や就職のために学校でどのような体験や環境が必要だと思うかを聞いた。

最も回答を集めたのは「職業体験」で42.1%、次いで「英語学習」29.8%、「総合学習」28.7%、「社会や経済・金融のしくみを学ぶ機会」26.2%、「受験対策」21.6%となっている。

大人の性別でみると、女性は「職業体験」の回答割合が高い。また、大人性別×子供性別では、娘のいる母親が「職業体験」の必要性を感じている割合が特になくなっていった。

「8 子供の将来選択への関わり方」との関係を見ると、自身の理想とする姿勢が「必要なら意見や助言はするが、進め方や判断は子供に任せる」とした見守りスタンスの親は、平均回答個数が多い。子供自身の判断材料が増えるよう、学校が提供する機会に期待している様子がうかがえる（図24）。

【図24】学校に望むキャリア教育機会（複数回答）



【自由回答】

■ 職場体験等について

- 職場体験や社会学習など、色々な体験があり、また体験したことに対して、感想を書いたり、意見を聞かれたりするみたいで、いい経験ができています。
- 実際に働いている人を招いての講話や、職場体験で色々な施設に行けたのが良かった。人に知られていないマイナーな職業があったらもっと良かった。
- 職業体験を地元の企業に協力してもらってやっているの、良い経験になっていると思う。
- 職業体験や見学などの、家では体験できないことをさせていただけるのはありがたいです。
- 職場体験は実施しているが、時間が足りないと思う。しかし、今の学生には覚えることや経験することが多く時間が足りないとも感じている、もっと効率的な教育&指導方法が必要と考える。
- 自分とは縁遠い、いつか来るだろう未来という感覚で仕事のことを考えている。ピンポイントの職業体験ではなく、日頃から職業に触れる機会を与えてほしい。
- 毎日が行事や準備で忙しいようで、将来の働き方などを考える時間はないように思える。
- 学校でも働き方を考える時間があると良い。起業家というのはどちらかというと少数派で、大多数が雇われになることを考えると、仕事の話を聞くときは起業家よりも雇われに聞いたほうがいい。
- プログラムはいくつか実施されているが、専門的な指導者が対応しているわけではなく、担任や担当教員が実施している。外部から専門家や社会人経験が豊富な指導者を呼んで実施してほしい。

■ 社会理解や生活スキルの教育について

- ユーチューブばかり見て、TVのニュースなども見ないから、世の中のことを知らないの、今起きている事だったり、お金の使い方だったりを教えてもらいたい。
- 学校でお金の勉強や、ネットの危険性など、勉強以外に生きていくうえで大事なことを学ぶ機会があればいいと思います。
- 実際に社会に出た時に役立つ教育の機会がほしい。税金や社会保険の話など。

■ 指導・教育内容について

- なりたいものに向かって頑張れるように、興味のある分野の勉強もできるよう学校教育の中で取り入れてほしい。英語は必須だと思うので、文法などを教えるのではなく、英語の時間は英語でしか話せないなど、伝える、伝わる力をつけてほしいと思う。
- 昔よりも教育について進歩していると感じるが、もっと英語の分野に関して将来を見据えた教育の機会をもうけて欲しいと思う。
- 社会に出てすぐにプレゼンができるような実践経験は積んでいるし、たくさんの情報から必要なものをまとめる学習もしており、その点は安心だが、ゼロから1を生み出す思考力を養う力が不足していると感じる。
- 同じメンバーとずっと一緒に進級していくので、自分の力で何かを達成する経験や色々な価値観やバックグラウンドの人達と関わる機会を増やして欲しい。